

# SAP.C\_BW4H\_2505.v2026-06-05.q57

試験コード : C\_BW4H\_2505  
試験名称 : SAP Certified Associate - Data Engineer - SAP BW/4HANA  
認証ベンダー : SAP  
無料問題の数 : 57  
バージョン : v2026-06-05  
ページの閲覧量 : 103  
問題集の閲覧量 : 583  
[https://www.jpnshtken.com/shiken/SAP.C\\_BW4H\\_2505.v2026-06-05.q57.html](https://www.jpnshtken.com/shiken/SAP.C_BW4H_2505.v2026-06-05.q57.html)

## 質問: 1

セマンティック オンボーディングのコンテキストにおけるモデル転送に適用される要素は次のうちどれですか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. SAP BW/4HANA モデル転送は、SAP Datasphere でのモデル生成に BW クエリを活用します。
- B. モデル転送は、オンプレミス環境からクラウドへ、またその逆にも利用できます。
- C. SAP BW ブリッジ モデル転送は、BW モデリング ツールを利用してエンティティをネイティブ SAP Datasphere にインポートします。
- D. SAP S/4HANA モデル転送は、SAP Datasphere でのモデル生成に ABAP CDS ビューを活用します。

正解: ([正解を表示します](#))

\* セマンティックオンボーディング :セマンティックオンボーディングとは、データモデルとそのセマンティクスをあるシステムから別のシステム (SAP BW/4HANAやSAP S/4HANAなどのオンプレミスシステムから)に転送するプロセスを指します。

/4HANA から SAP Datasphere などのクラウドベースのシステムへのデータ転送をサポートします。これにより、転送中にデータのセマンティック コンテキストが保持されます。

\* モデル転送 :モデル転送とは、ソースシステムからデータモデルをエクスポートし、ターゲットシステムにインポートするプロセスです。オンプレミス環境とクラウド環境間のシームレスな統合をサポートします。

\* SAP Datasphere :SAP Datasphere (旧称SAP Data Warehouse Cloud)は、データモデリング、統合、分析のためのクラウドベースのソリューションです。SAP BW/4HANAやSAP S/4HANAなど、さまざまなソースからモデルをインポートできます。

\* A. SAP BW/4HANA モデル転送は、SAP Datasphere でのモデル生成に BW クエリを活用します。

この記述は誤りです。SAP BW/4HANA Model TransferはデータモデルをSAP Datasphereに転送できますが、モデル生成にBWクエリは使用しません。代わりに、基盤となるメタデータと構造 (例InfoProvider、変換)を直接転送します。

\* B. モデル転送はオンプレミス環境からクラウド環境へ、またその逆方向にも利用できません。この記述は正しいです。モデル転送は、オンプレミスシステム (例SAP BW/4HANA)と

クラウドベースシステム（例SAP Datasphere）間の双方向のモデル移動をサポートします。この柔軟性により、組織はオンプレミスとクラウドの環境をシームレスに統合できます。

\* C. SAP BWブリッジモデル転送は、BWモデリングツールを利用してエンティティをネイティブSAPデータスフィアにインポートします。この記述は誤りです。SAP BWブリッジは主にSAP BWを接続するために使用されます。

/4HANAとSAP Datasphereは連携しますが、BWモデリングツールを活用してエンティティをSAP Datasphereにインポートすることはありません。その代わりに、リアルタイムのデータレプリケーションと仮想アクセスの実現に重点を置いています。

\* D. SAP S/4HANA モデル転送は、SAP Datasphere でのモデル生成に ABAP CDS ビューを活用します。この記述は正しくありません。SAP S/4HANA モデル転送は、SAP Datasphere でモデルを生成するために ABAP Core Data Services (CDS) ビューを使用します。ABAP CDS ビューは SAP S/4HANA 内のデータのセマンティック定義をカプセル化するため、モデルをクラウドに転送するのに最適です。

\* B: モデル転送は、オンプレミス環境とクラウド環境間の双方向の移動をサポートし、ハイブリッド環境における柔軟性を確保します。

\* D: ABAP CDS ビューは、SAP S/4HANA のセマンティック レイヤーの重要なコンポーネントであり、モデルを SAP Datasphere に転送する際に重要な役割を果たします。

参考資料:SAP Datasphere ドキュメント: 公式ドキュメントでは、モデル転送の機能と双方向移動のサポートについて概説しています。

セマンティック オンボーディングに関する SAP ノート: ノート 3089751 などには、システム間でモデルを転送する方法の詳細が記載されています。

ハイブリッド統合の SAP ベスト プラクティス: これらのガイドラインでは、SAP Datasphere でのモデル生成に ABAP CDS ビューを使用することに重点を置いています。モデル転送を活用することで、組織はオンプレミスとクラウド環境間でデータモデルのシームレスな統合を実現できます。

## 質問: 2

SAP BW/4HANA のどのオブジェクトで、定義に InfoObjects の両方のフィールドを使用できますか? 注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. 階層
- B. インフォオブジェクト型キー数値
- C. ODSビューを開く
- D. データストアオブジェクト（上級）
- E. 複合プロバイダー

正解: **C,D,E** ([コメントを发表する](#))

SAP BW/4HANAでは、様々なオブジェクトにおいて、フィールドとインフォオブジェクトを定義に使用できます。フィールドは基盤となるデータソース内の技術的な列名を指し、

インフォオブジェクトはデータにビジネスコンテキストを提供するセマンティックなメタデータオブジェクトです。正解の詳細な説明は以下の通りです。

\* 説明: SAP BW/4HANA の階層は、特性（組織構造や製品階層など）の階層関係を定義するために使用されます。階層は特性（インフォオブジェクト）に依存しますが、基盤となるデータソースのフィールドを直接使用することはありません。したがって、階層の定義においてフィールドとインフォオブジェクトの両方を使用することはできません。

\* 階層は純粋にメタデータ駆動型であり、技術分野とは相互作用しません。

オプションB :インフォオブジェクト型キー数値説明 :キー数値は、測定可能な値（例：収益数量）を格納するために使用されるインフォオブジェクトの一種です。キー数値は様々なBWオブジェクトで使用できますが、フィールドとインフォオブジェクトの両方を使用して定義されるわけではありません。キー数値は独立したメタデータオブジェクトであり、基盤となるデータソースのフィールドとインフォオブジェクトを結合するものではありません。

参照: キー数値はセマンティック レイヤーの一部であり、その定義に技術分野は含まれません。

オプションC :Open ODS View説明 :Open ODS Viewを使用すると、基盤となるデータベースのテーブルまたはビューに直接アクセスして仮想データモデルを作成できます。ソーステーブルのフィールド（テクニカル列名）とInfoObjects（セマンティックメタデータ）の両方を使用してビューの構造を定義できます。この柔軟性により、Open ODS Viewsは生データとBWセマンティクスを統合するための強力なツールとなります。

参考 :SAP BW/4HANAでは、BWのメタデータ機能を活用しながら外部データソースを公開するために、Open ODSビューが一般的に使用されています。Open ODSビューは、生データとセマンティックデータのシームレスな統合を可能にすることで、SAP Data Engineer - Data Fabricの原則に準拠しています。

オプションD :データストアオブジェクト（アドバンス）説明アドバンスドデータストアオブジェクト（aDSO）は、SAP BW/4HANAの汎用的なストレージオブジェクトであり、レポート作成とデータステージングの両方をサポートします。フィールド（技術的な列名）とインフォオブジェクト（セマンティックメタデータ）を構造体に定義できます。この二重の機能により、aDSOは生データとBWのセマンティックレイヤー間の橋渡しとして機能します。

参考 :aDSOはSAP BW/4HANAのデータモデリングアプローチの中核を成し、フィールドとInfoObjectの両方を柔軟に活用できる機能を提供します。SAP Data Engineer - Data Fabricのシナリオでは、データのハーモナイゼーションとレポート作成のために広く利用されています。

オプションE: 複合プロバイダ説明: 複合プロバイダは、インフォプロバイダ、Open ODSビュー、外部ソースなど、複数のソースからのデータを統合します。複合プロバイダの定義には、基盤となるデータソースのフィールドとBWメタデータのインフォオブジェクトの両方を使用できます。そのため、複合プロバイダは、多様なソースにわたるデータの統合ビューを作成するのに最適です。

参考：複合プロバイダーは、SAP BW/4HANAの仮想データモデリング機能の主要コンポーネントです。SAP Data Engineer - Data Fabricの原則に沿って、BWのセマンティックレイヤーとの互換性を維持しながら、柔軟なデータ統合を実現します。

概要SAP BW/4HANA の次のオブジェクトでは、定義にフィールドと InfoObject の両方を使用できます。

Open ODS View: ソースの技術分野と BW InfoObjects を組み合わせてセマンティック強化を実現します。

DataStore オブジェクト (高度): 柔軟なデータ モデリングのために、生のフィールドとセマンティック InfoObject の両方をサポートします。

複合プロバイダー: さまざまなソースのフィールドを BW InfoObjects と統合して、統合されたデータ ビューを作成します。

これらのオブジェクトは、生データとセマンティックメタデータをシームレスに統合する SAP BW/4HANA の機能を反映しており、SAP Data Engineer - Data Fabric フレームワーク内で効率的なデータエンジニアリングと分析をサポートします。

### 質問: 3

SAP BW/4HANA InfoObject のどの機能が物理的なデータ保存スペースを削減することを目的としていますか? 注:

この質問には2つの正解があります。

- A. 複合特性
- B. 拡張マスターデータ更新
- C. 参照特性
- D. 推移的属性

正解: ([正解を表示します](#))

### 質問: 4

インフォオブジェクトADDRESSには、高カーディナリティフラグが設定されています。しかし、ADDRESSには高カーディナリティフラグが設定されていない属性CITYがあります。このシナリオではSID値にどのような影響がありますか?

- A. InfoObject ADDRESS の SID 値は保存されません。
- B. InfoObject CITY がアクティブ化されると SID 値が生成されます。
- C. InfoObject ADDRESS のデータがロードされるときに SID 値が生成されます。
- D. InfoObject ADDRESS がアクティブ化されると SID 値が生成されます。

正解: ([正解を表示します](#))

### 質問: 5

どの SAP ソリューションが、データストア オブジェクト (高度) の書き込みインターフェイスを活用して、データストア オブジェクト (高度) の受信テーブルにデータをプッシュできますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. SAPプロセス統合

B. SAP Lscape 変換レプリケーション サーバー

C. SAP データサービス

D. SAP データスフィア

正解: A,D ([コメントを发表する](#))

SAP BW/4HANAのデータストアオブジェクト書き込みインターフェース (アドバンス)を使用すると、外部システムからデータストアオブジェクト (DSO)のインバウンドテーブルに直接データをプッシュできます。このインターフェースは、様々なSAPソリューションやサードパーティシステムからのデータを統合する際に特に役立ちます。以下に、正解とその妥当性について説明します。

\* A. SAPプロセス統合

\* SAP Process Integration (PI) (現在はSAP Cloud Integration (CI))は、異なるシステム間のシームレスな統合を促進するミドルウェアソリューションです。Write Interfaceを利用して、データストアオブジェクトのインバウンドテーブルにデータをプッシュできます (高度)。

\* SAP PI/CI は、データを転送するためのさまざまなプロトコルと形式 (IDoc、SOAP、REST など) をサポートしているため、SAP BW/4HANA を他のシステムと統合するための多目的ツールとなります。

\* SAP PI/CI は、書き込みインターフェースを介したデータのプッシュなど、SAP BW/4HANA と外部システムを接続するため、エンタープライズ環境で広く使用されています。

D). SAP データスフィア

SAP Datasphere (旧称SAP Data Warehouse Cloud)は、SAP BW/4HANAとシームレスに統合されるクラウドベースのデータ管理ソリューションです。Write Interfaceを使用して、データストアオブジェクトのインバウンドテーブルにデータをプッシュできます (高度)。SAP Datasphere はハイブリッドおよびクラウド ファーストのアーキテクチャ向けに設計されており、組織がオンプレミス環境とクラウド環境全体でデータを統合および調整できるようにします。

参考: SAP Datasphere は書き込みインターフェイスを活用して、SAP BW/4HANA とのリアルタイムまたはほぼリアルタイムのデータ統合を可能にし、最新のデータ ウェアハウス要件をサポートします。

不正なオプション:B. SAP Lscape Transformation Replication Server

SAP Landscape Transformation Replication Server (SLT) は、主に SAP ERP システムから SAP HANA またはその他のターゲットシステムへのデータのリアルタイムレプリケーションに使用されます。SLT は強力なデータレプリケーションツールですが、データストアオブジェクトの書き込みインターフェース (高度) を直接使用しません。

代わりに、SLT は書き込みインターフェイスの必要性を回避し、データベース レベルでデータを複製します。

参考: SLT は書き込みインターフェイスとは独立して動作し、DSO にデータをプッシュするためのサポート対象ソリューションとしてはリストされていません。

### C). SAPデータサービス

SAP Data Services は、データの統合と変換に使用される ETL (抽出、変換、ロード) ツールです。

SAP BW/4HANA にデータをロードすることはできませんが、DataStore オブジェクトの書き込みインターフェイス (高度) は使用されません。

代わりに、SAP Data Services は通常、標準の ETL プロセスを使用してデータをステージング領域にロードするか、ターゲットオブジェクトに直接ロードします。

参考: SAP Data Services は、データのロードに独自のメカニズムを使用するため、書き込みインターフェイスと対話するようには設計されていません。

結論: 正解は A. SAP Process Integration と D. SAP Datasphere です。これらのソリューションは、SAP BW/4HANA の DataStore オブジェクト (高度) の書き込みインターフェイスを活用するように明示的に設計されているためです。

外部システムと SAP BW/4HANA 間のシームレスな統合とデータ転送が可能になります。

### 質問: 6

BW クエリのキー日付によって影響を受ける可能性のあるオブジェクトの値はどれですか? 注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. 属性を表示する
- B. 基本的なキー数値
- C. 時間特性
- D. 階層
- E. ナビゲーション属性

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW (Business Warehouse) では、キー日付はクエリにおいて、時間依存オブジェクトに基づくデータの有効性を判断するための重要なパラメータです。キー日付を使用することで、特定の日付における有効なデータを取得できます。これは、時間依存のマスターデータや階層構造において特に重要です。以下では、BWクエリにおいてキー日付が様々なタイプのオブジェクトにどのように影響するかについて詳しく説明します。

\* 説明: 表示属性は、SAP BW の特性に関連付けられた追加の説明フィールドです。これらの属性は時間依存であるため、値は時間の経過とともに変化する可能性があります。BW クエリでキー日付が指定されると、システムはその特定の日付に有効だった表示属性の値を取得します。

\* SAP BWでは、表示属性は多くの場合、マスターデータテーブルから取得されます。マスターデータが時間依存型の場合 (例: 時間経過とともに変化する品目名や顧客名など)、キー日付を使用することで、クエリ結果に正しい履歴値が表示されます。

2. 基本キー数値説明: 基本キー数値は、売上高、販売数量、コストなどの測定可能な数値を表します。これらの値は通常、ファクトテーブルに格納され、キー日付によって直接影響を受けることはありません。代わりに、クエリで使用される時間特性 (会計年度 暦月など) の影響を受けます。

影響を受けない理由: 基本キー数値はトランザクション データに関連付けられた数値測定基準であるため、マスター データまたは階層の有効性に依存しません。したがって、キーの日付はそれらの値に影響を与えません。

参考: SAP BW のドキュメントでは、時間依存ロジックで明示的にモデル化されていない限り、主要な数値は主要な日付とは無関係であることが確認されています。

3. 時間特性の説明: 時間特性 (会計年度暦月、会計年度の記帳日など) は、キー日付によって直接影響を受けます。キー日付は、クエリで取得するデータの範囲を決定します。例えば、キー日付を「2023年1月1日」に設定すると、クエリは特定の日付または期間に関連するデータを取得します。

参考: 時間特性はBWクエリに不可欠な要素であり、キー日付は特定の時点のデータ取得を制限するフィルターとして機能します。この機能は、SAP BWクエリ設計ガイドに詳しく記載されています。

4. 階層説明: SAP BW の階層は多くの場合時間依存であり、構造やノードの割り当ては時間の経過とともに変化する可能性があります。キー日付により、指定された日付に有効な階層バージョンがクエリで使用されます。例えば、組織再編により組織階層が変更される可能性があります、キー日付によってどのバージョンの階層が適用されるかが決まります。

参考: SAP BW は時間依存の階層をサポートしており、キー日付はこれらの変更を管理するための標準的なメカニズムです。これについては、SAP BW 階層管理のドキュメントで詳しく説明されています。

5. ナビゲーション属性説明: ナビゲーション属性は表示属性に似ていますが、クエリ内のデータのフィルタリングやナビゲーションに使用されます。表示属性と同様に、ナビゲーション属性も時間依存となる場合があります。

ただし、キー日付は、値の表示ではなくクエリナビゲーションに主に使用されるため、ナビゲーション属性には影響しません。

影響を受けない理由: ナビゲーション属性はクエリ結果に直接表示されず、その動作はキー日付によって影響を受けません。

参考: SAP BW クエリ モデリング ガイドラインでは、ナビゲーション属性はキー日付の影響を受けないことが明記されています。

結論 BWクエリにおけるキー日付は、表示属性、時間特性、階層など、時間に依存するオブジェクトに影響します。これにより、クエリ結果に正しい履歴値または構造が使用されるようになります。基本キー数値とナビゲーション属性は、キー日付によって直接影響を受けません。

これらの関係を理解することで、SAP データ エンジニアは、ビジネス要件に応じて履歴データを正確に反映する堅牢なクエリを設計できます。

## 質問: 7

S-API エクストラクターがデルタモードを使用して SAP Datasphere コアテナントに直接データをロードするための前提条件は何ですか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

A. リアルタイムアクセスを有効にする必要があります

- B. 主キーが存在する必要があります。
- C. 抽出器は関数モジュールに基づいている必要があります
- D. 運用データプロビジョニング (ODP) を有効にする必要があります

正解: ([正解を表示します](#))

S-APIエクストラクタを介してデルタモードを使用してSAP Datasphere (旧称SAP Data Warehouse Cloud)コアテナントにデータを直接ロードするには、特定の前提条件を満たす必要があります。それぞれのオプションを評価してみましょう。

\* オプションA :リアルタイムアクセスを有効にする必要があります。リアルタイムアクセスはデルタモードロードの前提条件ではありません。デルタモードは増分データの抽出とロードに重点を置いており、必ずしもリアルタイム機能は必要ありません。リアルタイムアクセスは、即時のデータ可用性が重要なシナリオに適しています。

\* オプションB : 主キーが必要です。主キーはソースシステム内のレコードを一意に識別するため、デルタモードロードには不可欠です。主キーがないと、システムは前回の抽出以降に変更または追加されたレコードを判断できず、デルタ処理が実行できなくなります。

\* オプションC: 抽出器は汎用モジュールに基づいている必要があります。多くのS-API抽出器は汎用モジュールに基づいていますが、これはデルタモードロードの厳密な要件ではありません。デルタ抽出をサポートしている限り、ビューやテーブルなどの他のメカニズムに基づいて抽出器を作成することもできます。

\* オプションD :オペレーショナルデータプロビジョニング (ODP)を有効にする必要があります。ODPはデルタモードロードの重要な前提条件です。SAPソースシステムからデータを増分的に管理および抽出するためのインフラストラクチャを提供します。ODPがないと、システムは変更や差分を効果的に追跡できず、デルタモードロードは実行できなくなります。

参考資料:SAP Datasphere ドキュメント: デルタ モードを使用して SAP ソース システムからデータを統合するための前提条件について説明します。

SAP ヘルプ ポータル: S-API エクストラクタとデルタ処理の要件に関する詳細情報を提供します。

データ統合に関する SAP ベスト プラクティス: 効率的なデルタ抽出を可能にするための主キーと ODP の重要性を強調します。

結論として、S-API エクストラクタがデルタ モードを使用して SAP Datasphere コア テナントにデータをロードするための 2 つの前提条件は、プライマリ キーの存在と

Operational Data Provisioning (ODP) の有効化です。

質問: 8

DataMart DataStore オブジェクトではどのようなリクエストベースの削除が可能ですか?

- A. アクティブデータテーブル内の任意のリクエスト
- B. アクティブデータテーブル内の最新のリクエストのみ
- C. 受信テーブル内のアクティブ化されていないリクエスト
- D. 受信テーブル内の最新の非アクティブ化リクエストのみ

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANAでは、データマート・データストア・オブジェクト (DSO)は、レポート作成や分析のための詳細なデータを格納するために使用されます。リクエストベースの削除機能を使用すると、DSOから特定のデータリクエストを削除できます。ただし、リクエストが受信テーブルにあるかアクティブデータテーブルにあるかによって、削除できるリクエストには制限があります。正解の説明は以下の通りです。

A) アクティブデータテーブル内の最新のリクエストのみデータマートDSOでは、リクエストベースの削除はアクティブデータテーブル内の最新のリクエストに対してのみ可能です。リクエストがアクティブ化されると、インバウンドテーブルからアクティブデータテーブルに移動します。データの整合性を維持するため、SAP BW/4HANAでは、アクティブデータテーブル内の最新のリクエストのみを削除できるというルールが適用されます。古いリクエストを削除すると、データの整合性が損なわれる可能性があります。

\* リクエストを削除する手順:

\* SAP BW/4HANA 環境のデータストア オブジェクトに移動します。

\* アクティブ データ テーブル内の最新のリクエストを識別します。

\* リクエストを削除するには、リクエスト削除機能を使用します。

\* SAP BW/4HANA データ モデリング ガイドでは、データの一貫性を確保するために、アクティブ データ テーブルでのリクエストに基づく削除は最新のリクエストに制限されることが明示的に記載されています。

誤った選択肢B. 受信テーブル内のアクティブ化されていないリクエスト。アクティブ化されていないリクエストは受信テーブルに存在し、個別に制限なく削除できます。ただし、この質問は受信テーブルではなくアクティブデータテーブルについて具体的に言及しているため、この選択肢は誤りです。

参考 :SAP BW/4HANA のドキュメントでは、受信テーブル内のアクティブ化されていないリクエストは自由に削除できることが確認されていますが、これは質問の範囲外です。

C) 受信テーブル内の最新の非アクティブ化リクエストのみ。この記述は誤りです。受信テーブル内の非アクティブ化リクエストの削除には制限がありません。受信テーブル内の非アクティブ化リクエストはすべて、順序に関係なく個別に削除できます。

参考: SAP BW/4HANA データ モデリング ガイドでは、受信テーブル内のアクティブ化されていないリクエストには、アクティブ データ テーブル内のリクエストと同じ制限がないことを明確にしています。

D). アクティブデータテーブル内の任意のリクエスト。SAP BW/4HANAではアクティブデータテーブル内のリクエストの削除は許可されていないため、このオプションは正しくありません。データの整合性を維持するため、削除できるのは最新のリクエストのみです。参考: SAP BW/4HANA 管理ガイドでは、不整合が発生する可能性があるため、アクティブデータ テーブル内の任意のリクエストの削除は明示的に禁止されています。

結論DataMart データストア オブジェクトでのリクエスト ベースの削除に関する正しい答えは、アクティブなデータ テーブル内の最新のリクエストのみであるということです。この制限により、データの一貫性が維持されながら、必要に応じてユーザーが最新のデータを削除できるようになります。

質問: 9

CompositeProviders を実装する理由は何ですか?注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. BWクエリ用のインターフェースを提供する
- B. 外部スキーマからSAP HANAテーブルを直接公開する
- C. レポート用に結合されたデータを保持する
- D. 既存のBWモデルを組み合わせた仮想データマート層を提供する

正解: A,D ([コメントを发表する](#))

質問: 10

Facts タイプの Open ODS ビューを作成しました。Characteristics フォルダー内のフィールドをどのオブジェクトタイプに関連付けることができますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. マスターデータのODSビューを開く
- B. 特性タイプのインフォオブジェクト
- C. FactsタイプのODSビューを開く
- D. HDI計算データカテゴリディメンションのビュー

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 11

SAP Analysis for Microsoft Office はどのような機能を提供しますか?注: この質問には3つの正解があります。

- A. レポート内でメジャーをドラッグする
- B. 表とグラフに同時にデータを表示する
- C. 複数のデータソースを含める
- D. コンテキストメニューのエントリを変更する
- E. ナビゲーション状態のブックマークの作成

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 12

BW クエリで、売上高に基づいて 100 人の顧客のうち上位 10 人を検索する条件を定義しました。BW クエリの主要数値プロパティを使用すると、結果の表示に関するどの 2 つのシナリオを実現できますか。注:

この質問には2つの正解があります。

- A. 上位 10 社の顧客の売上合計を含む 1 行目と、その他の 90 社の顧客の売上合計を含む 2 行目
- B. 上位10社の顧客の売上合計を含む1行の結果
- C. 100人の顧客全員の売上合計を含む1つの結果行
- D. 上位 10 社の顧客の売上合計を含む 1 行目と、全 100 社の顧客の売上合計を含む 2 行目

正解: ([正解を表示します](#))

### 質問: 13

BW クエリで処理タイプ SAP HANA Exit を使用できる変数タイプにはどのようなものがありますか? 注:

この質問には正解が2つあります。

- A. 階層ノード
- B. 式
- C. テキスト
- D. 特性値

正解: **A,D** ([コメントを发表する](#))

SAP BW (Business Warehouse) クエリにおいて、変数は実行時にフィルタリングや計算のための動的な入力を可能にするプレースホルダーです。処理タイプ「SAP HANA Exit」は、SAP HANAのインメモリ機能を活用し、変数処理ロジックをデータベース層にプッシュダウンすることでクエリパフォーマンスを向上させる、特定の変数処理オプションです。これにより、実行速度が向上し、リソース利用が最適化されます。

\* 階層ノード (オプションA)

\* 階層ノードは、BW クエリで階層構造 (組織階層、製品階層など) を表すために使用されません。

\* SAP HANA Exit処理タイプを使用すると、階層ノード変数をSAP HANAデータベース内で直接処理できます。これにより、階層データの効率的な処理が可能になり、HANAの高度な処理機能を活用してクエリパフォーマンスが向上します。

\* 特性値 (オプションD)

\* 特性値は、マスター データに関連付けられた属性です (例: 顧客 ID、製品コード)。

\* SAP HANA Exit処理タイプを使用することで、特性値変数をHANAデータベース内で直接解決できます。これにより、アプリケーション層での追加処理が不要になり、クエリ実行が高速化されます。

\* 式 (オプションB) : 式変数、事前定義された式に基づいて値を動的に計算するために使用されます。これらの変数は通常、アプリケーション層で処理され、SAP HANAのExit処理タイプを利用することはできません。

\* テキスト (オプションC): テキスト変数は、マスター データに関連付けられた説明テキストをフィルター処理または表示するために使用されます。

数式変数と同様に、テキスト変数はアプリケーション層で処理され、SAP HANA Exit 処理タイプはサポートされません。

\* SAP BW/4HANA クエリ設計ガイド: このガイドでは、BW クエリで変数が処理される方法について説明し、特定の変数タイプに SAP HANA Exit を使用する利点を強調します。

\* リンク:SAP BW/4HANA ドキュメント

\* SAP HANA最適化手法 :SAP HANA Exitは、SAP BW/4HANA実装に推奨される広範な最適化手法の一部です。これは、様々なレイヤーにまたがるデータの統合と最適化というデータファブリックのコンセプトに沿ったものです。

参考: SAP ノート 2296290 - SAP BW/4HANA クエリ パフォーマンスのベスト プラクティス。

階層ノードと特性値を選択すると、クエリが SAP HANA のインメモリ処理機能を活用するようになります。これは、SAP エコシステムにおける最新のデータエンジニアリングの重要な側面です。

**質問: 14**

どのようなユースケースで推移的属性をモデル化する必要がありますか？

- A. マスターデータ属性に対する BW クエリの一時的プロバイダーを生成します
- B. マスターデータ属性の時間依存スナップショットを保存する
- C. 拡張マスターデータ更新を使用して属性をロードします
- D. ナビゲーション属性のナビゲーション属性に関するレポート

正解: [D \(コメントを发表する\)](#)

\* 推移的属性の使用例:

\* 推移的属性を使用すると、他のナビゲーション属性のナビゲーション属性をレポートできます。

\* シナリオ:

\* たとえば、製品にサプライヤー (ナビゲーション属性) があり、サプライヤーに国 (ナビゲーション属性) がある場合、推移的属性を使用すると、製品に関連付けられた国を直接レポートできます。

参考文献:

SAP ヘルプポータル - 推移的属性

SAP BW/4HANA 属性モデリングガイド

**質問: 15**

HDI コンテナを生成するには、どの開発オブジェクトを構築する必要がありますか？

- A. HDBモジュール
- B. SQLスクリプトプロシージャ
- C. スペース
- D. パッケージ

正解: [\(正解を表示します\)](#)

**質問: 16**

データに基づいた意思決定を行いたい企業が直面する主な課題は何ですか?注: この質問には3つの正解があります。

- A. 断片化された非構造化データ ソースの力を活用して、貴重なビジネス分析情報に変換します。
- B. データの品質に対する信頼を高める
- C. データ ランドスケープを簡素化してコストを削減し、洞察を加速します。
- D. 洞察、高度な分析、AI 機能の新たな次元を解放します。

E. 重要な洞察へのシームレスなアクセスを実現することで、ビジネスの隠れた可能性を明らかにします。

正解: ([正解を表示します](#))

有効的なC\_BW4H\_2505問題集はJPNTTest.com提供され、C\_BW4H\_2505試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新C\_BW4H\_2505試験問題集を提供します。JPNTTest.com C\_BW4H\_2505試験問題集はもう更新されました。ここでC\_BW4H\_2505問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、[https://www.jpntest.com/shiken/C\\_BW4H\\_2505-mondaishu](https://www.jpntest.com/shiken/C_BW4H_2505-mondaishu) 83問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 17

分析モデルのソースとして使用できるエンティティはどれですか？

- A. セマンティックタイプディメンションのビジネスエンティティ
- B. セマンティックタイプ Fact のビュー
- C. セマンティック型階層のテーブル
- D. セマンティックタイプテキストのリモートテーブル

正解: ([正解を表示します](#))

SAP Data Fabric または SAP BW/4HANA の分析モデルは、ファクト (メジャー) とディメンション (属性を組み合わせるデータ) を分析するように設計されています。分析モデルを作成するには、ファクトデータを表すソースエンティティが必要です。正解が B である理由を以下に詳しく説明します。

\* 誤り: セマンティックタイプのディメンションを持つビジネスエンティティは、測定可能なデータではなく、説明的な属性 (例: 顧客名、製品カテゴリ) を表します。ディメンションはファクトデータの拡充に不可欠ですが、分析モデルのプライマリソースとして使用することはできません。

オプションA: セマンティックタイプディメンションのビジネスエンティティ

\* 正解: セマンティックタイプ 「ファクト」のビューには、測定可能なデータ (例: 売上高販売数量) が含まれており、分析モデルの主要ソースとなります。これらのビューは、分析とレポート作成に必要な数値データを提供します。

オプションB: セマンティックタイプ 「事実」のビュー

\* 誤り: セマンティックタイプ 「階層」のテーブルは、階層関係 (例: 組織構造製品階層) を定義します。階層はデータの整理やナビゲーションに役立ちますが、測定可能なデータは含まれておらず、分析モデルのソースとして使用することはできません。

オプションC: セマンティック型階層のテーブル

\* 誤り: セマンティックタイプ Text のリモートテーブルは、テキストによる説明 (例: 製品名、地域名) を格納します。これらのテーブルはディメンションの拡張に使用されますが、測定可能なデータは含まれておらず、分析モデルのソースとしては適していません。

オプションD: セマンティックタイプテキストのリモートテーブル

\* SAP Data Fabric ドキュメント: エンティティ (ファクト、ディメンション、階層、テキストなど) の目的を定義する際のセマンティック タイプの役割について説明します。

\* SAP BW/4HANA モデリング ガイド: ファクト データをプライマリ ソースとして使用し、コンテキスト強化のためのディメンションを使用して分析モデルを構築する方法について説明します。

\* SAP Analytics Cloud 統合: 高度な分析とレポートを可能にするためのファクト ビューの重要性を強調します。

SAP Data Engineer - Data Fabric の概念への参照セマンティック タイプとその役割を理解することで、データ分析とレポートのビジネス要件を満たす分析モデルを効果的に設計できます。

質問: 18

SAP Analytics Cloud の拡張分析スマート機能のうち、概要、主要な影響要因、予期しない値、シミュレーションのタブを含む複数タブのストーリーを生成するものはどれですか。

- A. 予測予測
- B. 検索から洞察へ
- C. スマートディスカバリー
- D. スマート予測

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 19

SAP BW/4HANA プロジェクトのビジネスブループリントフェーズに含まれるタスクはどれですか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. ビジネスプロセスの主要業績評価指標を分析する
- B. Open ODSビューのフィールドにInfoObjectを関連付けます
- C. 階層型スケーラブルアーキテクチャ (LSA++) に準拠した SAP ビジネスコンテンツオブジェクトを有効化します。
- D. 中央の個別情報要件を収集する

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANAプロジェクトにおけるビジネスブループリントフェーズは、実装プロセスにおける重要なステップです。ビジネス要件の理解と文書化、主要業績評価指標 (KPI) の定義、そして組織のデータとレポートのニーズに関する詳細な情報の収集に重点が置かれます。このフェーズは、後続のフェーズにおける技術ソリューションの設計の基盤となります。

\* ビジネスプロセスの主要業績評価指標 (KPI) の分析 オプションA) ビジネスブループリントフェーズでは、ビジネスプロセスの成功を測定するために不可欠な主要業績評価指標 (KPI) を特定し、分析することが不可欠です。KPIは、SAP BW/4HANAシステムの設計を導く指標とレポート要件の定義に役立ちます。

- \* このタスクには、ビジネス関係者と協力して彼らの目標を理解し、それを測定可能な KPI に変換することが含まれます。
- \* たとえば、KPI には、売上収益、顧客満足度スコア、在庫回転率などが含まれます。
- \* 主要な個別情報要件の収集 (オプションD) ステークホルダーから詳細な情報要件を収集することは、ビジネスブループリントフェーズの中核となる活動です。これには、組織全体のさまざまなユーザーが必要とする具体的なデータ要素、レポート、ダッシュボードの特定が含まれます。
- \* これらの要件を一元化することで、ソリューションの設計がすべての関係者のニーズと一致し、機能のギャップを回避できるようになります。
- \* たとえば、財務チームには収益性レポートが必要になる場合がありますが、サプライチェーン チームには在庫予測が必要になる場合があります。
- \* Open ODSビューのフィールドにインフォオブジェクトを関連付ける (オプションB) : Open ODSビューのフィールドにインフォオブジェクトを関連付けることは、ビジネスブループリントフェーズではなく、実現フェーズで行われる技術モデリングタスクです。このフェーズでは、事前に収集した要件に基づいてソリューションを実装することに重点が置かれます。
- \* 階層化スケーラブル アーキテクチャ (LSA++) に準拠する SAP ビジネス コンテンツ オブジェクトを有効化します (オプション C):SAP ビジネス コンテンツ オブジェクトの有効化も実現フェーズの一部です。  
LSA++ の原則が全体的なアーキテクチャをガイドしますが、ビジネス ブループリントフェーズでは、技術コンポーネントの実装ではなく要件の理解に重点が置かれます。
- \* 目的: ビジネス ブループリント フェーズでは、SAP BW/4HANA の実装を推進するビジネス プロセス、KPI、レポート要件を文書化することを目的としています。
- \* 成果物 :
  - \* ビジネス プロセスのドキュメント。
  - \* KPI とレポート要件のリスト。
  - \* 情報モデルとデータフロー図。
- \* SAP BW/4HANA 向け SAP Activate 方法論: この方法論は、ビジネス ブループリントフェーズに関する詳細なガイダンスを含む、SAP BW/4HANA を実装するための構造化されたアプローチを提供します。
- \* リンク:SAP BW/4HANA 向け SAP Activate
- \* SAP BW/4HANA 実装のための SAP Best Practices: このリソースでは、ビジネス ブループリント フェーズを含む実装の各フェーズのタスクと成果物の概要を説明します。  
正解:他の選択肢が間違っている理由:ビジネスブループリントフェーズの重要なポイント:  
SAP Data Engineer - Data Fabric への参照: KPI の分析と情報要件の収集に重点を置くことで、SAP BW/4HANA ソリューションがビジネス ニーズに適合し、関係者に価値を提供できるようになります。

質問: 20

ユーザーには、管理領域 1000 2000 の分析権限があります。

インフォプロバイダには、管理領域 1000、2000、3000、4000 のレコードがあります。ユーザーはインフォプロバイダでデータ プレビューを開始します。

どのデータが表示されますか？

- A. 制御エリア 1000 2000 のデータ
- B. どの制御エリアにもデータがありません
- C. すべての管理領域の合計のみ
- D. 管理区域のデータ 1000 2000 合計 3000 4000

正解: ([正解を表示します](#))

\* SAP BW/4HANAにおける分析権限：分析権限は、組織単位（管理領域など）などの特定の基準に基づいてユーザーのデータアクセスを制限するために使用されます。これらの権限により、ユーザーはアクセス権限を持つデータのみを表示できます。

\* インフォプロバイダ：インフォプロバイダは、SAP BW/4HANA のデータストレージオブジェクトであり、レポート作成および分析用のデータを保持します。ユーザーがインフォプロバイダでデータプレビューを実行すると、システムはユーザーの分析権限を適用し、それに応じてデータをフィルタリングします。

\* データプレビューの動作：データプレビュー中、システムはユーザーの分析権限を評価し、権限のある値に一致するデータのみを表示します。権限のないデータは結果セットから除外されます。

\* ユーザーは管理領域 1000 および 2000 の分析権限を持っています。

\* インフォプロバイダには、管理領域 1000、2000、3000、および 4000 のレコードが含まれています。

\* ユーザーが InfoProvider でデータ プレビューを開始すると、次のようになります。

\* システムはユーザーの分析権限を適用します。

\* 許可された管理領域 (1000 および 2000) のデータのみが表示されます。

\* 許可されていない管理領域 (3000 および 4000) のデータは結果セットから除外されません。

\* B. どの管理領域にもデータがありません：これは、ユーザーに有効な分析権限がない場合、またはインフォプロバイダに一致するレコードがない場合にのみ発生します。ただし、ユーザーは管理領域1000と2000の権限を持っているため、これらの領域のデータは表示されます。誤りです。

\* C. すべての管理領域の合計のみを集計する：すべての管理領域にわたる集計は、データアクセスを許可された値に制限する分析承認の原則に違反します。

不正なデータ (3000 および 4000) は集計合計に寄与できません。誤りです。

\* D. 管理領域のデータ 1000 2000 合計 3000 4000：不正なデータ (3000と4000)は、集計値の一部であっても、いかなる形式でも含めることはできません。システムは不正なデータを結果セットから厳密に除外します。不正です。

主要概念：シナリオ分析：他の選択肢が誤りである理由：選択肢が正しい理由：システムはユーザーの分析権限を適用し、それに応じてデータをフィルタリングします。ユーザーは

管理領域1000と2000の権限を持っているため、データプレビューではこれらの領域のデータのみが表示されます。

参考資料:SAP BW/4HANA セキュリティ ガイド: この公式ガイドでは、分析権限の仕組みと、クエリやデータ プレビューにおけるデータの可視性への影響について説明しています。

分析権限に関する SAP ノート: 2508998 などのノートには、分析権限の設定とトラブルシューティングに関する詳細なガイダンスが記載されています。

データセキュリティに関する SAP ベストプラクティス: これらのガイドラインでは、ユーザーの役割と権限に基づいてデータアクセスを制限することの重要性を強調しています。分析承認を活用することで、組織はユーザーが表示を許可されているデータのみアクセスすることを保証し、コンプライアンスとデータ セキュリティを維持できます。

#### 質問: 21

階層化スケーラブルアーキテクチャ (SA++)のコンセプトに基づいた既存のフィールドベースのデータフローがあります。フィールドに関する新たな緊急のビジネス要件を満たすために、変換を変更することなく既存の特性の階層を活用したいと考えています。

これをどのように達成できますか? 注: この質問には2つの正解があります。

- A. BWクエリのフィールドに階層プロパティを割り当てます
- B. DataStore オブジェクトに特性を追加する (上級)
- C. フィールドをOpen ODSビューの特性に関連付けます
- D. フィールドをCompositeProviderの特性に関連付けます

正解: ([正解を表示します](#))

既存の特性階層を変換プロセスに変更することなく活用するという新たな緊急のビジネス要件を満たすには、SAP BW/4HANAの特定の機能を利用することでこれを実現できます。以下では、各オプションの仕組みと、検証済みの回答が正しい理由について詳しく説明します。

\* フィールドベースのデータフロー :SAP BW/4HANAのフィールドベースのデータフローでは、レコード全体ではなくフィールドレベルでデータを処理できます。このアプローチにより、特定のフィールドを個別に処理できる柔軟性が得られます。

\* SAP BW/4HANAの階層 :SAP BW/4HANAの階層は、マスターデータを構造化されたレベル (部門や製品カテゴリなどの組織階層など)に整理するために使用されます。これにより、ドリルダウンやロールアップなどの高度なレポート機能が可能になります。

\* レイヤード・スケーラブル・アーキテクチャ (LSA++): LSA++ は、データモデリングを簡素化し、スケーラビリティを確保する最新のデータウェアハウス・アーキテクチャです。Open ODS View、DataStore Object (Advanced)、CompositeProvider といったレイヤーが含まれており、データ処理とレポート作成において特定の役割を果たします。

\* 変換の独立性: 要件では、変換を変更しないことを指定します。

つまり、基盤となるデータ フロー ロジックを変更せずに、既存のオブジェクトと構成を活用する必要があります。

## 重要な概念:

\* 正解の理由 :SAP BW/4HANAでは、BWクエリ内のフィールドに階層を直接割り当てることができます。これにより、変換やデータフローを変更することなく、既存の特性の階層を利用できます。クエリ内で階層プロパティを割り当てることで、フィールドの階層レポート機能 (ドリルダウンなど)が有効になります。

### \* 仕組み:

\* BW クエリ デザイナーに移動します。

\* 特性に対応するフィールドを選択します。

\* フィールドに階層プロパティを割り当て、レポート内での階層ナビゲーションを有効にします。

### \* 利点:

\* 基礎となるデータ フローまたは変換に変更はありません。

\* 既存のクエリ機能を活用するため、迅速に実装できます。

\* 不正解の理由 :DataStoreオブジェクト (高度に特性を追加するには、データフローと変換を変更する必要があり、変換の変更を回避するという要件に違反します。このアプローチは、既存の設定に影響を与えずに緊急のビジネス要件を満たすには適していません。

\* なぜ不正解ですか? Open ODS View でフィールドを特性に関連付けると、データフローまたは変換にも変更が伴います。Open ODS View はデータ取得層の一部であるため、ここでの変更は上流のデータフローに影響を及ぼし、このシナリオでは許可されません。

\* 正しい理由 :SAP BW/4HANA の CompositeProvider は、複数のソース データストアオブジェクト、インフォプロバイダなど)のデータを単一の論理ビューに統合します。変換を変更することなく、CompositeProvider 内のフィールドを特性に関連付けることができます。これにより、既存の特性の階層構造をレポート作成に活用できます。

### \* 仕組み:

\* CompositeProvider 構成に移動します。

\* 必要な階層を持つ特性にフィールドをマップします。

\* 階層的なレポートを有効にするには、クエリで CompositeProvider を使用します。

### \* 利点:

\* 変換やデータ フローに変更はありません。

\* 柔軟性を高めるために既存の CompositeProvider 構造を活用します。

検証済み回答の説明: オプション A: BW クエリのフィールドに階層プロパティを割り当てます。オプション B:

DataStore オブジェクトに特性を追加する (上級) オプション C: Open ODS ビューで特性にフィールドを関連付けるオプション D: CompositeProvider で特性にフィールドを関連付ける

\* SAP BW/4HANAモデリングガイド :このガイドでは、BWクエリで階層プロパティを割り当て、CompositeProvidersでフィールドを特性に関連付ける方法について説明します。変換を変更することなくこれらの機能を活用することの重要性を強調しています。

\* SAP ノート 2700850: このノートでは、SAP BW/4HANA で階層を使用するためのベストプラクティスについて説明し、クエリと CompositeProviders で階層を実装するためのガイドランスを提供します。

\* BW/4HANA向けSAPベストプラクティス :SAPは、基盤となるデータフローを変更することなく緊急のビジネス要件を満たすために、BWクエリとCompositeProvidersの使用を推奨しています。これらのアプローチにより、既存のプロセスへの影響を最小限に抑えることができます。

SAP ドキュメントとリファレンス:

実用的な意味:緊急のビジネス要件に直面した場合:

\* BW クエリを使用して、フィールドに階層プロパティを割り当て、すばやく実装します。

\* CompositeProviders を活用して、変換を変更せずにフィールドを特性に関連付けます。

\* これらの変更はデータ フロー全体に影響を及ぼす可能性があるため、絶対に必要な場合を除き、DataStore オブジェクトまたは Open ODS View に変更を加えないでください。これらのプラクティスに従うことで、データ アーキテクチャの整合性を維持しながら、ビジネス ニーズを効率的に満たすことができます。

参考文献:

SAP BW/4HANA モデリングガイド

SAP ノート 2700850: SAP BW/4HANA の階層

BW/4HANA 向け SAP ベストプラクティス

質問: 22

CompositeProvider を使用すると、SAP BW/4HANA で何ができるようになりますか?注:

この質問には 3 つの正解があります。

- A. SAP HANA計算ビューを統合する
- B. 新しい計算フィールドを作成する
- C. 2つのABAP CDSビューを結合する
- D. Joins と Unions を使用して InfoProvider を結合する
- E. 新しい制限キー数値を定義する

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 23

SAP BW/4HANA の階層化スケーラブルアーキテクチャ (LSA++) におけるオープンオペレーショナルデータストア層の目的は何ですか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. 複数のソースシステムからのデータの調和
- B. ビジネスロジックに基づくデータの変換
- C. ソースシステムデータの初期ステージング
- D. ステージングなしでソースシステムデータをリアルタイムにレポート

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BWのLayered Scalable Architecture (LSA++)のOpen Operational Data Store (ODS) レイヤー

4HANAは、データウェアハウス・アーキテクチャ全体の一部として、データの管理と処理において重要な役割を果たします。Open ODSレイヤーは、柔軟性とパフォーマンスを維持しながら、運用および準リアルタイムのデータ要件に対応するように設計されています。以下では、このレイヤーの目的と、正解がAとCである理由について説明します。

\* A. 複数のソースシステムからのデータの調和

\* Open ODSレイヤーは、複数のソースシステムからのデータを調和させるためによく使用されます。これは、異なるソースからのデータを統合し、統一された形式に標準化することを意味します。

\* たとえば、さまざまな構造や命名規則を持つさまざまなERPシステムからの販売データがある場合、Open ODSレイヤーを使用すると、データをさらに処理したりレポート用に使用する前に、これらの違いを調整できます。

\* SAP BW/4HANAでは、Open ODSレイヤーが変換やマッピングなどのツールを提供することでハーモナイゼーションをサポートし、異なるソースからのデータ間の一貫性を確保します。これは、データ統合が困難な異機種混在環境において特に重要です。

C). ソースシステムデータの初期ステージング

Open ODSレイヤーは、ソースシステムから抽出された生データの初期ステージング領域として機能します。データを格納し、さらなる処理や分析のために準備するための一時的なストレージポイントを提供します。

このステージング機能により、LSA++アーキテクチャの他のレイヤーへのロードやリアルタイムレポートの有効化など、下流のプロセスでデータが元の形式（または最小限の変換）で使用できるようになります。

参考: Open ODSレイヤーは、高パフォーマンスのデータ取り込みとステージング用に最適化されており、データを迅速にロードして運用レポートやさらなる変換に利用できるようにする必要があります。シナリオに最適です。

誤った選択肢:B. ビジネスロジックに基づくデータの変換

Open ODSレイヤーでは変換処理が行われますが、これが主な目的ではありません。Open ODSレイヤーは、複雑なビジネスロジックの変換ではなく、初期のデータステージングとハーモナイゼーションに重点を置いています。

ビジネスロジックの変換は通常、データ伝播層(DPL)やコアデータウェアハウス層(CDWH)などのLSA++アーキテクチャの後続の層で実行されます。

参考: SAPでは、Open ODSレイヤーを軽量に保ち、運用およびほぼリアルタイムのユースケースに重点を置き、パフォーマンスに影響を与える可能性のある大規模な変換を避けることを推奨しています。

D). ステージングなしでソースシステムデータをリアルタイムにレポート

Open ODSレイヤーはリアルタイムレポートをサポートしますが、まずデータをステージングする必要があります。このレイヤーは、レポート作成に利用できる前にデータが保存・処理される中間ストレージポイントとして機能します。

ステージングなしでソース システム データについて直接レポートすることは、通常、ステージングの必要性を完全に回避する仮想データ モデル (VDM) または SAP HANA Live を通じて実現されます。

参考 :Open ODSレイヤーは、ステージングなしでソースシステムデータに直接リアルタイムでアクセスできるようには設計されていません。その役割は、運用レポートやさらなる処理のためにデータをステージングし、準備することです。

結論 :SAP BW/4HANAのLSA++アーキテクチャにおけるOpen ODSレイヤーは、主に複数のソースシステムからのデータをハーモナイズし、ソースシステムデータの初期ステージング領域として機能します。これらの目的は、柔軟性とパフォーマンスを維持しながら、運用および準リアルタイムのレポート作成をサポートするという役割と一致しています。したがって、正解はAとCです。

#### 質問: 24

複合プロバイダーを実装する理由は何ですか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. レポート用に結合されたデータを保持する
- B. 外部スキーマからSAP HANAテーブルを直接公開する
- C. BWクエリを使用するためのインターフェースを提供する
- D. 既存のBWモデルを組み合わせた仮想データマート層を提供する

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANA \$AP Data Engineer - Data Fabricランドスケープの一部)の複合プロバイダーは、複数のソースからのデータを統合し、レポート作成や分析のための統合ビューを作成するために不可欠なコンポーネントです。インフォプロバイダー、Open ODSビュー、外部ソースなど、さまざまなBWオブジェクトを統合することで、複雑なデータモデルを柔軟に作成できるツールとして機能します。複合プロバイダーが実装される理由について、以下に詳しく説明します。

\* 説明: 複合プロバイダーは、結合されたデータを物理テーブルにマテリアライズすることでデータを永続化するように設定できます。これは、中間結果を保存する必要がある場合や、頻繁にアクセスされるレポートのクエリパフォーマンスを最適化する必要がある場合に特に便利です。データの永続化により、アクセス時間が短縮され、基盤となるシステムの負荷が軽減されます。

\* SAP BW/4HANAでは、複合プロバイダーを使用することで、データを永続化するか仮想化するかをユーザーが定義できます。この柔軟性により、リアルタイムレポートと最適化されたバッチ処理の両方のシナリオをサポートします。

オプションB : 外部スキーマからSAP HANAテーブルを直接公開する説明 :このオプションは誤りです。複合プロバイダーは、外部スキーマからSAP HANAテーブルを直接公開するように設計されていません。複合プロバイダーは、BW/4HANA環境内のBWオブジェクトやその他のソースからのデータの結合に重点を置いています。外部のHANAテーブルを公開する必要がある場合は、通常、Open ODSビューなどの統合メカニズムを使用します。

参考: SAP ドキュメントでは、複合プロバイダーは外部 HANA テーブルを公開するのではなく、主に BW モデルを組み合わせるために使用されることが強調されています。

オプションC: BWクエリを使用するためのインターフェースを提供する説明: 複合プロバイダー自体はBWクエリ用のインターフェースを直接提供しないため、このオプションは誤りです。BWクエリは、複合プロバイダーを含むインフォプロバイダー上に構築されます。複合プロバイダーの役割はデータを結合することであり、BWクエリは分析ロジックとプレゼンテーション層を定義するために使用されます。

参考: SAP Data Engineer - Data Fabric ガイドラインによると、BW クエリは個別に作成され、複合プロバイダーまたはその他の InfoProvider によって公開されたデータを消費します。

オプションD: 既存のBWモデルを統合する仮想データマート層を提供する説明: 複合プロバイダーの主な目的の一つは、仮想データマート層を作成することです。これにより、ユーザーは既存のBWモデル (インフォキューブ、データストアオブジェクト、Open ODS ビューなど) を、物理的なデータ移動や複製を行うことなく統合できます。複合プロバイダーは仮想化を活用することで、柔軟性を維持しながら冗長性を低減し、データへのリアルタイムアクセスを実現します。

参考: SAP BW/4HANA は、さまざまなソース間でデータを統合および調整するために SAP Data Fabric の原則に沿って、仮想データ モデリング機能の一部として複合プロバイダーの使用を推進しています。

で

## 質問: 25

なぜ認証変数を使用するのですか？

- A. 認可オブジェクトS\_RS\_COMPに動的な値を提供する
- B. 承認された値に基づいてクエリをフィルタリングする
- C. 認可オブジェクトを使用して変数を保護する
- D. 動的な値を持つ分析権限を提供する

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANAの権限変数は、分析権限に動的に値を割り当てるために使用されます。これにより、ユーザーは表示権限のあるデータにのみアクセスできるようになります。それぞれの選択肢を分析し、Dが正しい理由を判断してみましょう。

\* 説明: 認可オブジェクトS\_RS\_COMPは、CompositeProviderとそのコンポーネントに関連しています。このオブジェクトは特定のCompositeProviderコンポーネントへのアクセスを制限する役割を果たしますが、認可変数の使用とは直接結びついていません。認可変数は分析認可専用設計されており、S\_RS\_COMPのような汎用認可オブジェクトには適していません。

\* 承認変数は分析承認フレームワークの一部であり、特性値に基づいてデータへのアクセスを制限することに重点を置いています。

2. 承認された値に基づいてクエリをフィルタリングする (オプション B) 説明: 承認された値に基づいてクエリをフィルタリングすることは、承認変数ではなく、分析承認自体の機能です。

承認変数は分析承認内の値を動的に入力するために使用されますが、クエリを直接フィルタリングするものではありません。

参考: 承認された値に基づくクエリ フィルタリングは、変数自体ではなく、分析承認の実行時動作によって処理されます。

3. 権限オブジェクトを使用して変数を保護する (オプション C) 説明: 権限オブジェクトを使用して変数を保護することは、権限変数の目的とは無関係です。SAP BW/4HANA の変数は通常、入力検証や制限によって保護されますが、これは権限変数の役割ではありません。

参考: 承認変数は、他の変数を保護するためではなく、分析承認に値を動的に割り当てるために使用されます。

4. 分析権限に動的な値を割り当てる (オプション D) 説明: 権限変数、実行時に分析権限に動的に値を割り当てるために特別に設計されています。例えば、権限変数を使用することで、ユーザーのログインID、組織単位、その他の動的な基準に基づいてデータへのアクセスを制限できます。これにより、ユーザーはアクセス権限を持つデータのみを参照でき、静的な事前定義値を必要とせずに済みます。

参考: SAP BW/4HANAでは、権限変数は分析権限フレームワークの重要な機能です。権限変数により、柔軟かつ動的な制限が可能になり、セキュリティとユーザビリティが向上します。

結論正解はD (分析権限に動的な値を与える)です。権限変数は、分析権限に動的に値を割り当て、ユーザーが閲覧権限を持つデータにのみアクセスできるようにする上で重要な役割を果たします。

#### 質問: 26

CompositeProvider ではどの結合タイプを使用できますか?注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. 内部結合
- B. 時間階層結合
- C. テキスト結合
- D. 参照ジョリン
- E. 完全外部結合

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANA プロジェクトとモデリングプロセス

#### 質問: 27

BW InfoObject で読み取りアクセス タイプを SAP HANA ビュー」に設定するのはなぜですか?

- A. マスターデータテキストの並列ロードを有効にする
- B. 計算ビューで定義されたマスターデータ属性をレポートします

- C. InfoObjectをOpen ODSビュー内の関連付けとして使用する
  - D. SAP HANA計算ビューを生成するには、データカテゴリディメンション
- 正解: ([正解を表示します](#))

**質問: 28**

SAP S/4HANA 組み込み分析を使用するために必要な基盤は何ですか？

- A. 生成された外部SAP HANA計算ビュー
- B. ABAP CDS ビューベースの仮想データモデル
- C. SAP アジャイルデータ準備
- D. SAP HANA に最適化されたビジネスコンテンツ

正解: ([正解を表示します](#))

**質問: 29**

どの SAP BW/4HANA オブジェクトが外部 SAP HANA ビューを生成する機能をサポートしていますか? 注:

この質問には正解が2つあります。

- A. BWクエリ
- B. ODSビューを開く
- C. 複合プロバイダー
- D. セマンティックグループオブジェクト

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANAでは、特定のオブジェクトが外部SAP HANAビューの生成をサポートしており、SAP HANAのインメモリ機能とのシームレスな統合と、SAP BW/4HANA以外のツールやアプリケーションでの利用が可能になります。正解の説明は以下の通りです。

A) BWクエリ SAP BW/4HANAのBWクエリは、外部SAP HANAビューを生成できます。この機能により、クエリをSAP HANAの計算ビューとして公開し、SAP Analytics Cloud (SAC)、SAP BusinessObjects、カスタムアプリケーションなどのレポートツールからアクセスできるようになります。外部HANAビューを生成することで、BWクエリはSAP HANAのパフォーマンス最適化を活用しながら、SAP BW/4HANAの分析機能を維持できます。

\* SAP BW/4HANA クエリデザイナーには、クエリを外部 HANA ビューとして公開する機能が含まれています。この機能は「SAP BW/4HANA クエリデザインガイド」に記載されており、SAP BW/4HANA と SAP HANA のより広範な統合の一環です。

B). オープンODSビュー オープンODSビューは、SAP HANAテーブルやその他のソースに保存されているデータへの直接アクセスを提供するように設計されています。SAP HANAのモデリング機能と緊密に統合されているため、外部SAP HANAビューの生成を本質的にサポートしています。オープンODSビューはSAP BW/4HANAとSAP HANA間のブリッジとして機能し、外部ツールやアプリケーションがHANAビューを介してデータを直接利用できるようにします。

参考: Open ODSビュー機能は、SAP BW/4HANAモデリングガイドに記載されているように、SAP BW/4HANAの中核機能です。外部ビューの生成を含むSAP HANAのネイティブ機能を活用するために特別に設計されています。

誤ったオプションC. 複合プロバイダーSAP BW/4HANAの複合プロバイダーは、複数のソース (インフォプロバイダー、Open ODSビュー、HANAテーブルなど)からのデータを統合し、レポート作成用の統一された構造を構築します。ただし、複合プロバイダーは外部SAP HANAビューの生成を直接サポートしていません。SAP BW/4HANA内でレポート作成に使用することはできますが、そのアーキテクチャにはHANAビューとして公開する機能が含まれていません。

参考: SAP BW/4HANA モデリング ガイドでは、複合プロバイダーは SAP BW/4HANA の内部にあり、外部の HANA ビューを生成しないことが明示的に記載されています。

D) セマンティックグループオブジェクトセマンティックグループオブジェクトは、SAP BWのメタデータを整理および管理するために使用されます。

/4HANA。これらは物理的なデータ構造を表すものではなく、外部SAP HANAビューの生成もサポートしません。代わりに、インフォオブジェクトやクエリなどの関連オブジェクトをグループ化し、ナビゲーションとメンテナンスを容易にするための論理コンテナとして機能します。

参考: SAP BW/4HANA 管理ガイドでは、セマンティック グループを、データ モデリングや統合コンポーネントではなく、組織ツールとして説明しています。

結論外部 SAP HANA ビューを生成する機能をサポートする 2 つの SAP BW/4HANA オブジェクトは次のとおりです。

BWクエリ

ODSビューを開く

これらのオブジェクトは、SAP HANAのインメモリデータベースとのシームレスな統合を可能にし、外部ツールがSAP BW/4HANAでモデル化されたデータを利用できるようにします。この機能は、SAP BW/4HANAとSAP HANAの緊密な統合を強調し、両プラットフォームの強みを活かした高度な分析とレポート作成を実現します。

質問: 30

特性に高カーディナリティ フラグを設定する場合、何を考慮すべきでしょうか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. この特性を別の特性のナビゲーション属性として使用することはできません。
- B. この特性にはナビゲーション属性は使用できません。
- C. この特性には 20 億を超えるマスター データ レコードをロードできません。
- D. この特性は階層内の外部特性として使用できません。

正解: A,B (コメントを发表する)

SAP BW/4HANAでは、高カーディナリティフラグは、非常に多くの固有値を持つ特性 (例: トランザクションID、タイムスタンプ)の処理を最適化するために使用されます。ただし、

このフラグを有効にすると、特性の使用方法に一定の制限が課せられます。以下に、正解とその妥当性について説明します。

\* A. この特性を別の特性のナビゲーション属性として使用することはできません。

\* 高カーディナリティフラグが設定されている場合、特性は別の特性のナビゲーション属性として使用できません。ナビゲーション属性は特性に追加の説明情報を提供するために使用されますが、高カーディナリティ特性はサイズが大きく、パフォーマンスに影響を与える可能性があるため、この目的には適していません。

\* SAP BW/4HANA では、最適なパフォーマンスを確保し、クエリ実行中の過剰なメモリ消費を回避するために、この制限が適用されます。

B). この特性にはナビゲーション属性は使用できません。

同様に、High Cardinality フラグを持つ特性には、ナビゲーション属性を割り当てることができません。

ナビゲーション属性により複雑さが増し、レポート中に処理されるデータの量が増加しますが、これは高カーディナリティ特性の最適化目標と互換性がありません。

参考: SAP BW/4HANA では、効率的なクエリ パフォーマンスを維持するために、高カーディナリティ特性のナビゲーション属性の使用を制限しています。

不正なオプション:C. この特性には 20 億を超えるマスター データ レコードをロードできません。

この記述は誤りです。High Cardinalityフラグは、マスターデータレコードの数が20億を超えるシナリオなど、非常に多くの固有値を持つ特性を処理するために特別に設計されています。

参考: SAP BW/4HANA は、SAP HANA のインメモリ機能を活用して、大規模なデータセットを効率的に管理するための高カーディナリティ特性をサポートします。

D). この特性は階層内の外部特性として使用することはできません。

高カーディナリティ特性は、そのサイズと複雑さのため、通常は階層内では使用されませんが、階層内の外部特性として使用することを妨げる明示的な制限はありません。

参考 :SAP BW/4HANA では、高カーディナリティ特性を階層に含めることができますが、パフォーマンスの問題を回避するために、その使用は慎重に評価する必要があります。

結論 : 正解はA. この特性を別の特性のナビゲーション属性として使用することはできません。B. これらの制限は、SAP BW/4HANAにおける高カーディナリティ特性のパフォーマンスとメモリ使用量を最適化するために課せられているため、この特性にナビゲーション属性を使用することはできません。

### 質問: 31

分析権限はどこで割り当てることができますか? 注: この質問には 2 つの正解があります。

A. トランザクション RSEADMIN でユーザーに直接

B. トランザクションPFEGで、権限オブジェクトS\_RS\_AOを使用してロールに

C. トランザクションSU01でユーザーに直接

D. トランザクションPFEGで、権限オブジェクトS\_RS\_AUTHを使用してロールに

正解: **A,B** ([コメントを发表する](#))

SAP BW/4HANAにおける分析権限は、組織単位や地域といった特定の基準に基づいてデータへのアクセスを制限するために使用されます。これらの権限により、ユーザーはアクセス権限を持つデータのみを閲覧できるようになります。正解がAとBである理由について、以下に詳しく説明します。

\* 正解: RSECADMINトランザクションは、SAP BW/4HANAにおける分析権限の管理専用に設計されています。このトランザクションでは、分析権限をユーザーに直接割り当てることができます。このアプローチは、個々のユーザーレベルできめ細かなアクセス制御を適用する必要がある場合に便利です。

オプションA: トランザクションRSECADMINでユーザーに直接

\* 正解: PFCGトランザクションは、SAPシステムにおけるロールベースの権限管理に使用されます。権限オブジェクトS\_RS\_AO (インフォプロバイダとクエリへのアクセスを制御する)をロールに割り当てることで、ロールレベルで分析権限を定義できます。これにより、ロールに割り当てられたすべてのユーザーが同じデータアクセス制限を継承できるようになります。

オプションB: トランザクションPFCGで、権限オブジェクトS\_RS\_AOを使用してロールに

\* 誤り: SU01はユーザーマスタデータを管理するために使用されますが、分析権限を割り当てるための適切なトランザクションではありません。分析権限は、RSECADMIN (ユーザーに直接)またはPFCG (ロール経由)を通じて管理されます。

オプションC: トランザクションSU01でユーザーに直接

\* 誤り: 承認オブジェクトS\_RS\_AUTHは分析承認の管理には使用されません。

代わりに、S\_RS\_AOは、SAP BW/4HANA内のデータへのアクセスを制御するための正しい承認オブジェクトです。

オプションD: トランザクションPFCGで、権限オブジェクトS\_RS\_AUTHを使用してロールに

\* SAP BW/4HANA セキュリティ ガイド: 分析権限を管理するためのRSECADMINとPFCGの使用について説明します。

\* SAP ヘルプ ポータル: 承認オブジェクトS\_RS\_AOと、データアクセスの制限におけるその役割に関する詳細を提供します。

\* SAP データ ファブリック アーキテクチャ: データ セキュリティを確保する上でのロールベースおよびユーザーベースのアクセス制御の重要性を強調します。

SAP Data Engineer - Data Fabric Concepts の参考資料

有効的な**C\_BW4H\_2505**問題集はJPNTTest.com提供され、**C\_BW4H\_2505**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**C\_BW4H\_2505**試験問題集を提供します。JPNTTest.com C\_BW4H\_2505試験問題集はもう更新されました。ここで**C\_BW4H\_2505**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセ

質問: 32

オブジェクトを共有するユースケースはどれですか? 注: この質問には3つの正解があります。

- A. 製品ディメンションビューは、さまざまなビジネスセグメントのさまざまなファクトモデルで使用する必要があります。
- B. BW時間特性は、複数のDataStoreオブジェクトにわたって使用する必要があります(高度)。
- C. ソース接続は、異なるレプリケーションフローで使用する必要があります。
- D. タイムテーブルは中央のスペースで定義され、他の多くのスペースでも使用される必要があります。
- E. SAP DataSphere コアスペース全体の SAP BW ブリッジスペースにあるリモートテーブルを使用します。

正解: ([正解を表示します](#))

SAP Data FabricおよびSAP BW/4HANA環境において、オブジェクトの共有は再利用性、一貫性、効率性を確保するための一般的な要件です。正解がA、B、Dである理由を以下に詳しく説明します。

\* 正解: 複数のファクトモデル間で製品ディメンションビューを共有することは、データモデリングにおける典型的なユースケースです。同じディメンションビューを再利用することで、製品関連属性(製品名カテゴリ、階層など)が異なるビジネスセグメント間でどのように表現されるかの一貫性を確保できます。このアプローチにより、冗長性が回避され、レポートと分析の一貫性が確保されます。

オプションA: 製品ディメンションビューは、異なるビジネスセグメントの異なるファクトモデルで使用する必要があります。

\* 正解: 会計年度、暦年、週などの時間特性は、SAP BW/4HANA内の複数のデータストアオブジェクト(DSO)で再利用されることがよくあります。単一の時間特性を共有することで、すべてのDSOで同じ時間関連の定義が使用されるようになります。これは、正確な時間ベースの分析とレポート作成に不可欠です。

オプションB: BW時間特性は複数のデータストアオブジェクト間で使用される必要があります(上級)

\* 誤り: ソース接続は技術的には異なるレプリケーションフローで再利用できます。しかし、SAP Data Fabricの文脈では、これは「オブジェクトの共有」の主要なユースケースとはみなされません。ソース接続は通常、データモデル内で再利用可能なオブジェクトとして共有されるのではなく、システムレベルで管理されます。

オプションC: ソース接続を異なるレプリケーションフローで使用する必要がある

\* 正解: SAP DataSphere内の異なるスペースやワークスペース間で一貫性を保つために、一元化されたタイムテーブルは共有スペースまたは中央スペースに作成されることがよく

あります。これらのテーブルを共有することで、時間関連データの重複を回避し、すべての依存モデルで同じ時間定義が使用されるようになります。

オプションD: 中央のスペースで定義されたタイムテーブルは、他の多くのスペースでも使用する必要があります。

\* 誤り: SAP BW ブリッジスペース内のリモートテーブルは SAP DataSphere コアスペース間でアクセスできますが、これは従来の意味での「オブジェクトの共有」ではなく、スペース間のアクセスに関するものです。ここでは、再利用性ではなく接続性に重点が置かれています。

オプションE: SAP DataSphere コアスペース全体にわたって SAP BW ブリッジスペースにあるリモートテーブルを使用する

\* SAP DataSphere ドキュメント: スペース間の一貫性を確保するために、ディメンションやタイム テーブルなどのオブジェクトを一元管理して共有することの重要性を強調します。

\* SAP BW/4HANA モデリング ガイド: 複数の DSO およびファクト モデルでの時間特性とディメンション ビューの再利用について説明します。

\* SAP データ ファブリック アーキテクチャ: 冗長性の削減とデータ ガバナンスの改善における共有オブジェクトの役割を重視します。

SAP Data Engineer - Data Fabric Concepts の参考資料

### 質問: 33

SAP BWのデータを仮想的に利用するために、SAP HANAデータベーステーブルにOpen ODSビューを作成しました。

/4HANリアルタイムレポートの要件が変更され、SAP BWにデータを保存するよう求められています。

/4HANA.Open ODS View エディターの「データフローの生成」機能を使用すると、どのオブジェクトが作成されますか? 注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. データソース
- B. SAP HANA 計算ビュー
- C. 変換
- D. DataStore オブジェクト (高度)
- E. 複合プロバイダー

正解: ([正解を表示します](#))

### 質問: 34

SAP ERP ODP\_SAPデータソースがSAP BW/4HANAの最初の永続データ層に誤った値を送信していることに気付きました。潜在的な抽出器の問題を分析するには、どのようなオプションがありますか? 注:

この質問には2つの正解があります。

- A. SAP ERP のプログラム RODPS\_REPL\_TEST を使用します。
- B. SAP BW/4HANA でトランザクション ODQMON (デルタ キューの監視) を使用します。

- C. SAP ERP でトランザクション RSA3 (抽出チェッカー) を使用します。
- D. SAP ERP のテーブル RSDDSTATEXTRACT のエントリを確認します。

正解: ([正解を表示します](#))

SAP ERP ODP\_SAP データソースからSAP BW/4HANAの最初の永続データレイヤーに不正な値が配信される場合、SAP ERPシステムの抽出レベルで潜在的な問題を分析することが重要です。以下に正解の詳細な説明を示します。

\* 説明: プログラム RODPS\_REPL\_TEST は、SAP ERP システム内の ODP\_SAP データソースからのデータ複製をテストするために使用されます。抽出プロセスをシミュレートし、抽出されたデータが期待値と一致するかどうかを検証できます。これにより、抽出口ジックまたは設定の問題を特定するのに役立ちます。

\* RODPS\_REPL\_TEST は、SAP が提供する ODP ベースのデータソースのテスト用標準ツールです。特に、SAP ERP システムにおけるデータ抽出に関連する問題の診断に役立ちます。

オプション B: SAP BW/4HANA のトランザクション ODQMON (デルタキューの監視) を使用する説明:

ODQMONはSAP BW/4HANAでデルタキューを監視し、ソースシステムからデータが正しく転送されていることを確認するために使用されます。ただし、SAP ERPシステムの抽出レベルの問題の分析には役立ちません。ODQMONは、データ転送プロセスのBW/4HANA側に重点を置いています。

参考: ODQMON は主に BW/4HANA のデルタ キューを監視するツールであり、ERP システムの抽出プログラムの問題の診断には適していません。

オプションC :SAP ERPのトランザクションRSA3 (抽出チェッカー)を使用する説明 :

RSA3は、SAP ERPシステムで抽出ツールをテストおよび検証するための強力なツールです。抽出口ジックを実行し、抽出されたデータをERPシステム内で直接表示できます。抽出されたデータを期待値と比較することで、マッピング、フィルター、変換の誤りなどの問題を特定できます。

参考 :RSA3は、SAP ERPシステムの抽出ツールの問題のデバッグに広く使用されています。データソースがSAP BW/4HANAに正確なデータを提供することを保証するために不可欠なツールです。

オプションD: SAP ERPのテーブルRSDDSTATEXTRACTのエントリを確認する説明: テーブルRSDDSTATEXTRACTは、SAP ERPシステムでは有効なテーブルでも標準テーブルでもありません。ODP\_SAPデータソースまたは抽出診断のコンテキストには存在しません。したがって、このオプションは正しくありません。

参考: SAP ドキュメントには、抽出プログラムの問題を分析するための関連テーブルとして RSDDSTATEXTRACT は記載されていません。

概要SAP ERP システムにおける潜在的な抽出の問題を分析するには:

RODPS\_REPL\_TEST: ODP\_SAP データソースの抽出プロセスをシミュレートしてテストします。

RSA3: 抽出口ジックを検証し、抽出されたデータを検証します。

これらのツールは、抽出レベルでの問題を特定して解決するのに役立ち、正しいデータが SAP BW/4HANA の最初の永続データ層に配信されることを保証します。

**質問: 35**

どのようなモデリングの決定が実行時のパフォーマンスに副作用をもたらす可能性がありますか? 注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. 特性に直接割り当てられる属性の代わりに推移的属性を使用します。
- B. Stard DataStore オブジェクトの「変更ログの書き込み」プロパティのチェックを外します。
- C. DataMart DataStore オブジェクト内の特性を別のグループに移動します。
- D. 特性の時間非依存属性を時間依存属性に変更します。
- E. ナビゲーション属性の代わりに、基になる DataMart DataStore オブジェクトの特性を CompositeProvider に含めます。

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANAでデータをモデリングする際、特定の決定は実行時パフォーマンスに重大な副作用をもたらす可能性があります。それぞれの選択肢を分析してみましょう。

\* オプション A: 特性に直接割り当てられる属性の代わりに推移的属性を使用します。

推移的属性とは、データモデル内の他の属性に依存する派生属性です。直接割り当てられた属性の代わりに推移的属性を使用すると、システムは基礎となる関係に基づいて値を動的に計算する必要があるため、クエリ実行時に複雑さが増します。特に大規模なデータセットの場合、クエリのパフォーマンスが低下する可能性があります。

\* オプション B: 標準データストアオブジェクトの「変更ログの書き込み」プロパティのチェックを外します。

変更ログを書き込む」プロパティは、パフォーマンスを低下させるのではなく、向上させます。変更ログに変更を書き込まないことで、システムは履歴データの追跡に伴うオーバーヘッドを削減します。したがって、この決定は実行時パフォーマンスに悪影響を与えません。

\* オプション C: DataMartデータストアオブジェクト内の特性を別のグループに移動します。DataMartデータストアオブジェクト内の特性を別のグループに移動すると、主にデータの論理的な構成に影響しますが、実行時のパフォーマンスには直接影響しません。このような変更は、物理的なストレージとクエリ実行には影響しません。

\* オプション D: 特性の時間非依存属性を時間依存属性に変更します。

時間非依存属性を時間依存属性に変換すると、データモデルの複雑さが増します。時間依存属性では、システムが時間の経過とともに属性の複数のバージョンを管理する必要があり、データ量とクエリに必要な計算量が増加します。これは、特に大規模なデータセットや頻繁な更新を伴うクエリでは、実行時パフォーマンスを大幅に低下させる可能性があります。

\* オプション E: ナビゲーション属性の代わりに、基盤となる DataMart データストアオブジェクトの特性を CompositeProvider に含めます。基盤となる DataMart データストアオ

プロジェクトの特性を CompositeProvider に直接含めると、ナビゲーション属性を使用する場合と比べてパフォーマンスが向上する可能性があります。ナビゲーション属性を使用すると、クエリ実行時に追加の結合が必要になるため、パフォーマンスが低下する可能性があります。ただし、質問がナビゲーション属性を直接特性に置き換えることを示唆している場合、この決定はパフォーマンスにプラスの影響を与える可能性があります。逆に、逆の場合（直接特性の代わりにナビゲーション属性を使用する）は、パフォーマンスが低下します。

参考資料:SAP BW/4HANA モデリング ガイド: 推移的属性、時間依存属性、ナビゲーション属性がクエリ パフォーマンスに与える影響を説明します。

SAP ヘルプ ポータル: SAP BW でデータ モデルを最適化するためのベスト プラクティスに関する詳細なドキュメントを提供します。

/4 仕事。

SAP コミュニティ ブログ: 専門家は、実際のシナリオにおけるさまざまなモデリングの決定のパフォーマンスへの影響について頻繁に議論します。

要約すると、オプション A、D、および E には、計算の複雑さが増したり、クエリ実行中に結合が追加されたりすることで、実行時のパフォーマンスに悪影響を与える可能性があるモデリングの決定が含まれます。

質問: 36

SAP HANAモデリングに重点を置くのではなく、どのような要件に重点を置くことを提案しますか?注:

この質問には2つの正解があります。

- A. 定期的に異なるソースからスナップショットまたはデルタをロードする
- B. あいまい検索を使用して最適な一致を見つける
- C. 社内SQL知識の活用
- D. マスターデータの調和されたセットに関するレポート

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 37

SAP BW/4HANA ビジネスコンテンツを使用する利点は何ですか?注: この質問には2つの正解があります。

- A. SAP BW/4HANAコンテンツの有効化中に分析権限を自動生成します。
- B. 既成モデルを使用した SAP BW/4HANA 実装の加速
- C. SAP BW/4HANAのインストール中にコンテンツを自動的にアクティブ化します。
- D. 顧客固有の要件を満たすためにビジネスコンテンツオブジェクトを変更する機能

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 38

SAP S/4HANA 組み込み分析を使用するために必要な基盤は何ですか?

- A. SAP HANA に最適化されたビジネスコンテンツ

B. ABAP CDS ビューベースの仮想データモデル

C. 生成された外部SAP HANA計算ビュー

D. SAP アジャイルデータ準備

正解: **B** ([コメントを发表する](#))

SAP S/4HANA Embedded Analyticsは、ABAP CDS (Core Data Services)のビューベースの仮想データモデル (VDM)を基盤としています。この基盤は、S/4HANAシステムのトランザクションデータから直接データを利用するための統合レイヤーを提供します。

\* ABAP CDS ビューを基盤として:

\* CDS ビューはデータのセマンティック モデルを定義し、SAP S/4HANA とシームレスに統合します。

\* これらのビューを使用すると、ユーザーは外部データの移動を必要とせずに高度なレポートと分析を構築できます。

\* 仮想データモデル (VDM):

\* VDM は、分析とレポートに最適化された CDS ビューの構造化されたフレームワークを提供します。

\* SAP Analytics ツール向けにカスタマイズされた分析、トランザクション、消費のビューが含まれます。

参考文献:

SAP ヘルプポータル - S/4HANA 組み込み分析の概要

SAP ラーニング ハブ - ABAP CDS ビューの基礎

質問: **39**

インフォオブジェクト「ADDRESS」には高カーディナリティフラグが設定されています。ただし、「ADDRESS」には属性があります。

高カーディナリティフラグのない「CITY」。このシナリオではSID値にどのような影響がありますか？

A. InfoObject "ADDRESS" の SID 値は保存されません。

B. InfoObject "CITY" がアクティブ化されると、SID 値が生成されます。

C. InfoObject "ADDRESS" がアクティブ化されると、SID 値が生成されます。

D. InfoObject "ADDRESS" のデータがロードされるときに SID 値が生成されます。

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW (ビジネスウェアハウス)では、高カーディナリティの概念が、InfoObjectsにおけるデータの保存方法と管理方法を決定する上で重要な役割を果たします。質問で説明されているシナリオを分解し、SID (サロゲートID) 値への影響を分析してみましょう。

\* InfoObject: InfoObjectはSAP BWの基本的な構成要素であり、次のようなビジネスエンティティを表します。

「ADDRESS」または「CITY」。

\* 高カーディナリティフラグ :このフラグがインフォオブジェクトに設定されている場合、そのインフォオブジェクトには非常に多くの個別値（高カーディナリティ）が含まれていることを示します。これは、SIDの生成と管理方法に影響します。

\* SID (サロゲート ID): InfoObject の各個別値に割り当てられる一意の識別子。SID は、クエリ パフォーマンスを最適化し、ストレージ要件を削減するために使用されます。

\* インフォオブジェクト ADDRESS」:このインフォオブジェクトには高カーディナリティフラグが設定されています。これは、システムが ADDRESS」に多数の異なる値を期待していることを意味します。その結果、SID生成は

ADDRESS」は、実際のデータがシステムにロードされるまで延期されます。このアプローチにより、アクティベーション時の不要なオーバーヘッドを回避し、効率的なストレージを確保します。

\* 属性 CITY」:この属性には高カーディナリティフラグが設定されていません。そのため、高いカーディナリティを持たない標準的な InfoObject の場合と同様に、InfoObject がアクティブ化されると CITY」が生成されます。

\* InfoObject "ADDRESS" については、高カーディナリティフラグが設定されているため、アクティベーション時に SID 値は生成されません。代わりに、"ADDRESS" のデータがシステムにロードされた際に動的に生成されます。この動作は、SID の生成を実行時まで延期するという高カーディナリティオブジェクトの設計原則と一致しています。

\* 属性 CITY」の場合、高カーディナリティフラグが設定されていないため、アクティベーション中に SID 値が生成されます。

主要な概念:シナリオ分析:SID 値への影響:オプション D が正解である理由:正解は D です。

SID値は、インフォオブジェクト ADDRESS」のデータがロードされたときに生成されます。これは、SAP BWにおける高カーディナリティのインフォオブジェクトの動作と一致しています。SIDの生成は、パフォーマンスとストレージを最適化するため、データのロードまで延期されます。

参考資料 :SAP BW ドキュメント（高カーディナリティに関するもの）SAP BW システムは、大規模なデータセットを効率的に管理するために、高カーディナリティフラグを使用します。高カーディナリティオブジェクトの場合、SID はアクティベーション時ではなく、実行時のデータロード時に生成されます。

SID 生成に関する SAP ノート: SID 生成に関連する SAP ノート (例: ノート 2008578) では、高カーディナリティ オブジェクトの動作と、それが SID 管理に与える影響について説明しています。

SAP Data Fabric のベスト プラクティス: カーディナリティが高いシナリオでは、最適なパフォーマンスとリソース使用率を確保するために、データがロードされるまで SID 生成を延期することをお勧めします。

High Cardinality フラグの意味と属性との相互作用を理解することで、ADDRESS」の SID 値はデータがロードされたときにのみ生成されると確信を持って結論付けることができます。

質問: 40

SAP Crystal Reports for Enterprise を使用してレポートを作成し、データソースとして分析ビューが必要です。

この分析ビューを作成するにはどのツールを使用できますか？

- A. SAP BusinessObjects Web インテリジェンス
- B. エンタープライズ向け SAP Crystal Reports
- C. Microsoft Office 向け SAP 分析
- D. SAP Lumira、デザイナーエディション

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 41

主要な数値について、事前定義されたしきい値からの逸脱をSAP Analysis for Microsoft Officeで視覚化したいと考えています。どのBWクエリ機能を使用していますか？

- A. 数式セル
- B. 例外
- C. キー数値プロパティ
- D. 条件

正解: B ([コメントを发表する](#))

SAP Analysis for Microsoft Office において、キー数値の事前定義されたしきい値からの逸脱を強調表示するには、BW クエリの例外機能を使用します。例外機能を使用すると、キー数値の特定の条件またはしきい値に基づいて、視覚的なインジケータ（色分けなど）を定義できます。これにより、ユーザーはレポート内で外れ値や重要な値を直接特定しやすくなります。

\* しきい値に基づくハイライト表示：例外機能を使用すると、主要な数値を事前定義されたしきい値と比較するルールを定義できます。例えば、100を超える値を赤で、50未満の値を緑でハイライト表示するルールを設定できます。

\* 動的な視覚化 :BWクエリで例外を定義すると、SAP Analysis for Microsoft Officeなどのレポートツールで自動的に適用されます。視覚的なインジケータ（セルの背景色など）は、実行時に取得されたデータに基づいて動的に調整されます。

\* ユーザーフレンドリーな設計：例外はBExクエリデザイナーまたはBWモデリングツールで設定され、追加のプログラミングやスクリプトは必要ありません。そのため、ビジネスユーザーやアナリストが簡単にアクセスできます。

\* 数式セル (オプションA)：数式セルは、派生値を計算したり、クエリでカスタム計算を実行したりするために使用されます。データの操作は可能ですが、しきい値に基づいて偏差を視覚的に強調表示する機能は備えていません。

\* キー数値プロパティ (オプションC) キー数値プロパティは、キー数値の動作（例スケールリング、集計）を定義します。条件付き書式設定や視覚的な強調表示機能は含まれていません。

\* 条件 オプションD) : 条件、特定の基準に基づいてクエリ内のデータをフィルタリングするために使用されます。条件によって表示されるデータが制限される一方で、偏差やしきい値を視覚的に表示することはできません。

\* BEx クエリ デザイナーまたは BW モデリング ツールで BW クエリを開きます。

\* 「例外」セクションに移動し、しきい値 (例より大きい、より小さい、等しい) を定義します。

\* 各しきい値範囲に視覚的なインジケータ (色など) を割り当てます。

\* クエリを保存してアクティブ化します。

\* SAP Analysis for Microsoft Office のクエリを使用すると、関連するキー数値に例外が自動的に適用されます。

\* SAP BW/4HANA クエリ設計ガイド: このガイドでは、レポート機能を強化するために例外やその他のクエリ機能を構成する詳細な手順について説明します。

\* リンク:SAP BW/4HANA ドキュメント

\* SAP ノート 2484976 - SAP BW/4HANA でのクエリ設計のベスト プラクティス: このノートでは、重要なデータ ポイントを視覚化し、SAP Analysis for Microsoft Office などのレポート ツールでユーザー エクスペリエンスを向上させるために例外を使用することの重要性について説明しています。

例外の主な機能:他のオプションが間違っている理由:例外の実装方法:SAP Data Engineer - Data Fabric への参照:例外を使用すると、事前定義されたしきい値からの逸脱を効果的に視覚化できるため、意思決定が迅速化され、データに対するより優れた洞察が得られます。

#### 質問: 42

Stard DataStoreオブジェクトのスナップショットサポート機能の使用を検討しています。この機能を使用すると、どのデータ管理プロセスが遅くなる可能性がありますか？

A. 選択的なデータ削除

B. 受信テーブルからリクエストを削除します

C. 受信テーブルへの入力

D. データのアクティブ化

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW/4HANAの「スナップショットサポート」機能は、標準データストアオブジェクト (DSO) 内に履歴データのスナップショットを保持できるように設計されています。この機能を有効にすると、システムはレコードの複数のバージョンを時間の経過とともに維持できるため、監査、変更追跡、履歴分析の実行に役立ちます。ただし、この機能は、特定のデータ管理プロセスのパフォーマンスに関してトレードオフを伴います。

それぞれのオプションを評価してみましょう。

\* オプションA: 選択的なデータ削除スナップショットサポートを有効にすると、システムが履歴スナップショットを管理 追跡する必要があるため、選択的なデータ削除の速度が低下します。特定のレコードを削除するには、履歴スナップショットの整合性を維持するために追加の処理が必要になります。このプロセスには、アクティブデータと履歴データ間の依

存関係のチェックが含まれるため、スナップショットサポートを有効にしないシナリオと比較して、より多くのリソースを消費します。

\* オプションB: インバウンドテーブルからリクエストを削除するインバウンドテーブルからのリクエストの削除は、通常、スナップショットサポートの影響を受けません。この操作は、生データがアクティブ化またはさらに処理される前に削除することに重点を置いています。スナップショットサポートは主にアクティブ化されたデータと履歴スナップショットに影響するため、この機能が有効かどうかに関わらず、このプロセスは効率的です。

\* オプションC: 受信テーブルへの入力受信テーブルへの入力には、生のデータをDSOにロードすることが含まれます。

このプロセスはスナップショットサポートとは独立しており、この機能は有効化後のデータ管理方法にのみ影響します。したがって、スナップショットサポートを有効にしても、インバウンドテーブルへのデータ入力プロセスは遅くなりません。

\* オプションD: データのアクティブ化スナップショットサポートが有効になっている場合、データのアクティブ化には追加の手順(履歴スナップショットの作成など)が必要になることがありますが、通常は選択的なデータ削除ほど遅くはありません。

SAP BW/4HANA では、スナップショットサポートでもアクティベーションプロセスが最適化されており、新しいレコードとスナップショットの作成を効率的に処理します。

参考資料:SAP BW/4HANA 管理ガイド: 選択的なデータ削除を含む、スナップショットサポートがデータ管理プロセスに与える影響について説明します。

SAP ヘルプポータル: スナップショットサポートの仕組みとパフォーマンスへの影響について詳しく説明します。

SAP ベストプラクティスドキュメント: スナップショットサポートが有益なシナリオを強調し、潜在的なパフォーマンスの考慮事項を概説します。

結論として、選択的なデータ削除は、標準データストアオブジェクトでスナップショットサポートを有効にすることで最も大きな影響を受けるプロセスです。これは、削除中にデータの整合性を確保しながら、過去のスナップショットを管理するという複雑さが増すためです。

#### 質問: 43

BW クエリの多次元例外集計で1つのキー数値に使用できる参照特性の最大数はいくつですか?

- A. 3
- B. 10
- C. 7
- D. 5

正解: ([正解を表示します](#))

#### 質問: 44

SAP はビジネスユーザーのサポートにおいて SAP Datasphere をどのように位置付けていますか? 注: この質問には3つの正解があります。

- A. ビジネス ユーザーは、さまざまなソースからアジャイル モデルを作成できます。
- B. ビジネス ユーザーは、データ分析に組み込みの分析 Fiori アプリを活用できます。
- C. ビジネス ユーザーは、IT 部門の関与なしにシステム リソースを割り当てることができます。
- D. ビジネス ユーザーは、既存のモデルに基づいて制限付きの計算列を作成できます。
- E. ビジネス ユーザーは独自の CSV ファイルをアップロードできます。

正解: [\(正解を表示します\)](#)

SAP Datasphere (旧称 SAP Data Warehouse Cloud)は、ガバナンスとスケーラビリティを維持しながらセルフサービス機能を提供することで、ビジネスユーザーを支援するように設計されています。それぞれの選択肢を分析し、A、B、Eが正しい理由を判断してみましょう。

\* 説明 :SAP Datasphereは、オンプレミスシステム、クラウドアプリケーション、外部データセットなど、様々なソースからデータを統合することで、ビジネスユーザーが俊敏なデータモデルを作成できるようにします。この柔軟性により、ユーザーはIT部門に過度に依存することなく、特定のビジネスニーズを反映したモデルを構築できます。

\*プラットフォームには、「データビルダー」や「スペース管理」といったツールが用意されており、多様なデータソースからモデルを簡単に作成できます。これらのツールはユーザーフレンドリーに設計されており、ビジネスユーザーが独立して作業を進めることができます。

2. ビジネス ユーザーは、データ分析に組み込みの分析 Fiori アプリを活用できます (オプション B)説明:

SAP DatasphereはSAP Analytics Cloud (SAC)やその他の分析ツールと統合されており、ビジネスユーザーは組み込みのFioriアプリをデータ分析に活用できます。これらのアプリは、あらかじめ構築されたダッシュボードとビジュアライゼーションを提供するため、ユーザーは技術的な専門知識を必要とせず高度な分析を実行できます。

参考: SAP Datasphere の組み込み分析は、直感的なツールを通じてビジネスユーザーを支援するという SAP のビジョンに沿って、リアルタイムの洞察と意思決定をサポートします。

3. ビジネスユーザーはIT部門の関与なしにシステムリソースを割り当てることができます (オプションC) 説明SAP Datasphereはセルフサービス機能を提供しますが、リソース割り当て (メモリ、CPU、ストレージなど)は通常、最適なパフォーマンスとガバナンスを確保するために管理レベルで管理されます。ビジネスユーザーは、システムリソースの誤用や過剰割り当てを防ぐため、システムリソースを直接制御することはできません。

参考 :SAP Datasphere におけるリソース管理は、管理者がスペースとユーザーのクォータと制限を定義することで制御されます。これにより、システムの安定性と拡張性が維持されます。

4. ビジネスユーザーは、既存のモデルに基づいて制限付き計算列を作成できます (オプションD) 説明 : 制限付き計算列を作成するには、データモデリングとSQLスクリプトに関する深い理解が必要であり、これは通常、ビジネスユーザーの専門分野を超えています。こ

のタスクは、技術的な専門知識を持つデータエンジニアやパワーユーザーに適しています。

参考: SAP Datasphere は高度なモデリング機能をサポートしていますが、これらはビジネスユーザーではなく技術ユーザーによって使用されることが多いです。

5. ビジネスユーザーは独自のCSVファイルをアップロード可能 (オプションE) 説明SAP Datasphereでは、ビジネスユーザーはCSVファイルを各自のスペースに直接アップロードできます。この機能により、ユーザーは独自のデータをプラットフォームに組み込んで分析やモデリングを行うことができ、俊敏性とコラボレーションを促進できます。

参考: CSV ファイルをアップロードする機能は、SAP Datasphere のセルフサービス機能の一部であり、ビジネスユーザーが IT の介入なしに個人データや部門データを統合できるようにします。

**質問: 45**

SAP HANA SDA リモート ソースを使用して、外部データベースにあるテーブルのデータにアクセスする必要があります。そのデータにアクセスするには、他にどの SAP HANA 要素が必要ですか。

- A. レプリケーションタスク
- B. 仮想テーブル
- C. テーブル関数
- D. フローグラフ

正解: ([正解を表示します](#))

**質問: 46**

SAP BWのデータを仮想的に利用するために、SAP HANAデータベーステーブルにOpen ODSビューを作成しました。

/4HANA。リアルタイムレポートの要件が変更され、SAP BWにデータを保存することが求められています。

/4 仕事。

Open ODS View エディターの「データ フローの生成」機能を使用すると、どのオブジェクトが作成されますか？

注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. DataStore オブジェクト (高度)
- B. SAP HANA 計算ビュー
- C. 変換
- D. データソース
- E. 複合プロバイダー

正解: ([正解を表示します](#))

\* Open ODS View :SAP BW/4HANAのOpen ODS Viewは、外部ソース (SAP HANAテーブルなど)のデータを仮想的に利用することを可能にします。データは永続化されませんが、基盤となるソースへのリアルタイムアクセスを提供します。

\* データフロー生成機能 :Open ODS Viewエディタの「データフロー生成」機能を使用すると、SAP BW/4HANAはレポート作成用にデータを永続化するためのオブジェクトを作成します。これは、仮想データをBWシステム内で永続的な形式に変換することを意味します。

\* 生成されたオブジェクト:

\* DataStore オブジェクト (詳細): Open ODS ビューから抽出されたデータを保存するために使用されます。

\* 変換: データが変換され、DataStore オブジェクトにロードされる方法を定義します (詳細)。

\* データ ソース: 保存されるデータのソースを表します。

主要な概念: 「データ フローの生成」によって作成されるオブジェクト:Open ODS View エディターで「データ フローの生成」機能を使用すると、次のオブジェクトが作成されます。

\* DataStore オブジェクト (詳細) データが永続化される主要なオブジェクトです。Open ODS ビューから抽出されたデータのストレージレイヤーとして機能します。

\* 変換: Open ODSビューのフィールドをデータストアオブジェクト (詳細)にマッピングするための変換が自動的に生成されます。これにより、読み込みプロセス中にデータが正しく構造化され、変換されることが保証されます。

\* データソース: Open ODS ビューをデータのソースとして表すデータソースが作成されます。これにより、BW システムは仮想ビューからデータを抽出し、データストアオブジェクト (詳細)にロードできるようになります。

\* B. SAP HANA 計算ビュー :Open ODS ビューは SAP HANA 計算ビューをベースに作成できますが、「データフロー生成」機能では追加の計算ビューは作成されません。この機能は、BW システム内でのデータの永続化に重点を置いています。

\* E. CompositeProvider: CompositeProviderは、複数のソースからのデータを組み合わせてレポートを作成するために使用されます。「データフローの生成」機能では自動的に作成されません。

参考資料:SAP BW/4HANAのOpen ODSビューに関するドキュメント:公式ドキュメントでは、

「データフローの生成」機能とデータの永続化におけるその役割。

Open ODS ビューに関する SAP ノート: ノート 2608998 などには、Open ODS ビューが永続ストレージ オブジェクトと対話する方法についての詳細が記載されています。

SAP BW/4HANA データモデリングのベストプラクティス: これらのガイドラインでは、仮想ソースからのデータを永続化するために、変換とデータストアオブジェクト (詳細) を使用することを推奨しています。

「データフローの生成」機能を使用すると、仮想データの消費から永続的なストレージへのシームレスな移行が可能になり、リアルタイムのレポート要件への準拠が保証されます。

有効的なC\_BW4H\_2505問題集はJPNTTest.com提供され、C\_BW4H\_2505試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新C\_BW4H\_2505試験問題集を提供します。JPNTTest.com C\_BW4H\_2505試験問題集はもう更新されました。ここでC\_BW4H\_2505問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、[https://www.jpntest.com/shiken/C\\_BW4H\\_2505-mondaishu](https://www.jpntest.com/shiken/C_BW4H_2505-mondaishu) 83問、30%ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」

質問: 47

SAP Datasphere のリモート テーブル機能を使用する場合、どのようなオプションがありますか? 注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. スナップショット (データのコピー) を作成することにより、データを SAP Datasphere に永続化できます。
- B. リアルタイムレプリケーションを使用してデータを永続化できます。
- C. 高度な変換機能を使用してデータをロードできます。
- D. ソース システムへのリモート アクセスによって、データに仮想的にアクセスできます。
- E. データ アクセスは仮想から永続的に切り替えることができますが、その逆はできません。

正解: A,B,D ([コメントを发表する](#))

\* BW Bridge Cockpit :BW Bridge Cockpit は、SAP BW/4HANA と SAP Datasphere (旧称 SAP Data Warehouse Cloud)の統合を管理するための一元的なインターフェースです。シームレスなデータ交換に必要なソフトウェアコンポーネント、通信システム、その他の設定を行うためのツールを提供します。

\* BW Bridge Cockpit のタスク:

\* ソフトウェアコンポーネント :SAP BW/4HANAとSAP Datasphere間の転送に必要なメタデータとデータモデルをカプセル化する論理ユニットです。設定には、BW Bridge Cockpit へのアクセスが必要です。

\* 通信システム :SAP Datasphereなどの外部システムへの接続詳細 ホスト、認証情報などを定義します。これらのシステムの作成または設定は、BW Bridge Cockpit で行います。

\* トランスポート リクエスト: これらは、BW ブリッジ コックピットではなく、SAP BW/4HANA システム自体内で管理されます。

\* ソース システム: これらは、BW Bridge Cockpit ではなく、RSA1 などのトランザクションコードを使用して SAP BW/4HANA システムで構成されます。

\* A. 移送依頼の作成: このタスクは、SAP BW/4HANAシステムで標準の移送管理ツール (\$E09、SE10など)を使用して実行されます。BW Bridge Cockpitへのアクセスは必要ありません。

正しくない。

- \* B. ソフトウェアコンポーネントの設定 :ソフトウェアコンポーネントは、SAP BW/4HANAとSAP Datasphere間でメタデータとデータモデルを転送するために不可欠です。これらを設定するには、BW Bridge Cockpit にアクセスする必要があります。正解です。
- \* C. ソースシステムの作成 :ソースシステムは、トランザクションRSA1または同様のツールを使用してSAP BW/4HANAシステムで設定されます。このタスクにはBW Bridge Cockpitは使用されません。不正解です。
- \* D. 通信システムの作成 :通信システムは、SAP Datasphereなどの外部システムへの接続詳細を定義します。これらのシステムの設定は、BW Bridge Cockpit における重要なタスクです。

正しい。

- \* B: ソフトウェア コンポーネントのセットアップは BW Bridge Cockpit の中核機能であり、SAP BW/4HANA と SAP Datasphere 間のシームレスな統合を可能にします。
- \* D: 通信システムの作成は、外部システムとの適切な接続を確保するため、BWブリッジコックピットにおけるもう1つの重要なタスクです。

参考資料:SAP BW/4HANA 統合ドキュメント:公式ドキュメントでは、ソフトウェアコンポーネントと通信システムの管理における BW Bridge Cockpit の役割について概説しています。

BW Bridge Cockpit に関する SAP ノート: 3089751 などのノートには、BW Bridge Cockpit で実行されるタスクに関する詳細なガイダンスが記載されています。

ハイブリッド統合のための SAP ベスト プラクティス: これらのガイドラインでは、ハイブリッドランドスケープにおけるソフトウェアコンポーネントと通信システムの重要性を強調しています。

BW Bridge Cockpit を活用することで、管理者は SAP BW/4HANA と SAP Datasphere 間の統合を効率的に管理できます。

#### 質問: 48

SAP BW/4HANA の階層化スケーラブルアーキテクチャ (LSA++) のどのレイヤーが、調和された一貫性のあるデータのメインストレージとして設計されていますか?

- A. データ取得層
- B. オペレーショナルデータストアレイヤーを開く
- C. 柔軟なエンタープライズデータウェアハウスコア層
- D. 仮想データマート層

正解: C ([コメントを发表する](#))

#### 質問: 49

BW クエリでは、特性 0CALMONTH の入力可能な BW 変数のデフォルト値として、現在の四半期の最初の月を設定する必要があります。

どのような処理タイプを使用しますか?

- A. オフセット値による手動入力
- B. 置換パス

### C. 顧客出口

### D. デフォルト値による手動入力

正解: ([正解を表示します](#))

SAP BW (Business Warehouse) および SAP Data Engineer - Data Fabric では、クエリ内で変数を使用することで、0CALMONTH (暦月) のような特性値の動的な入力や自動決定が可能になります。変数の処理タイプによって、値の導出方法や設定方法が決まります。この質問の目標は、入力可能な BW 変数のデフォルト値として、現在の四半期の最初の月を設定することです。

#### \* A. オフセット値による手動入力

\* この処理タイプでは、現在の日付またはその他の参照ポイントに対するオフセット計算に基づいて変数のデフォルト値を定義できます。

\* この場合、オフセットを使用して現在の四半期の最初の月を動的に計算するように変数を設定できます。例:

\* 現在の月が 4 月 (Q2 に属する) の場合、変数は 1 月 (Q2 の最初の月) を自動的に計算します。

\* これは、現在の四半期を決定するシステムの機能を活用し、オフセットを適用してその四半期の最初の月を識別することによって実現されます。

: SAP BW クエリ デザイナーでは、0CALMONTH などの時間依存特性に対して動的なデフォルト値を導出するために、「オフセット値を使用した手動入力」オプションがよく使用されます。

#### 誤ったオプション: B. 置換パス

置換パス処理タイプは、変数の値がクエリ、InfoObject、階層などの別のオブジェクトから派生される場合に使用されます。

置換パスは変数を他のデータ ソースにリンクするのに強力ですが、システム日付に基づいて現在の四半期の最初の月を動的に計算するには適していません。

参照: 置換パスは、値が動的に計算されるのではなく、事前定義されたソースから取得されるシナリオに適しています。

### C). 顧客出口

カスタマーエグジットを使用すると、カスタム ABAP コードを実装して変数の値を決定することができます。このアプローチは技術的には現在の四半期の最初の月を計算するために使用できますが、この要件には不必要に複雑です。

顧客 Exit を使用すると追加の開発作業が必要になりますが、「オフセット値による手動入力」オプションでは、よりシンプルですぐに使用できるソリューションが提供されます。

参照: 顧客 Exit は通常、標準の処理タイプでは実現できない、高度にカスタマイズされたロジックや複雑なロジックのために予約されています。

### D). デフォルト値による手動入力

「デフォルト値付き手動入力」処理タイプでは、変数に静的なデフォルト値を指定できます。ただし、このオプションでは、現在の日付または四半期に基づく動的な計算はサポートされません。

現在の四半期の最初の月を動的に決定することが要件であるため、このオプションは適切ではありません。

参考: 静的なデフォルト値は固定入力には便利ですが、時間に依存する計算に必要な柔軟性が欠けています。

結論: 正解はAです。オフセット値を使用した手動入力です。システム日付に基づいて現在の四半期の最初の月を動的に計算するために必要な機能を提供します。このアプローチは効率的かつシンプルで、追加のカスタマイズや開発を必要とせずSAP BWの組み込み機能を活用します。

#### 質問: 50

SAP HANA HDI 計算ビューで、「セマンティック タイプ 通貨コード付き金額」のメジャーを使用します。メジャーにはどのような種類の通貨参照を割り当てることができますか?

注: この質問には2つの正解があります。

- A. テーブル TCURC からの固定通貨
- B. 同じSAP HANAビュー内の変数
- C. 同じSAP HANAビューの別の列
- D. 別のSAP HANAビューからの列

正解: B,C ([コメントを发表する](#))

#### 質問: 51

複合プロバイダーを使用すると、SAP BW/4HANA で何ができるようになりますか? 注: この質問には3つの正解があります。

- A. 2つの ABAP CDS ビューを結合します。
- B. 新しい計算フィールドを作成します。
- C. 新しい制限キー数値を定義します。
- D. SAP HANA 計算ビューを統合します。
- E. Joins Unions を使用して InfoProvider を結合します。

正解: B,C,E ([コメントを发表する](#))

SAP BW/4HANAの複合プロバイダーは、複数のインフォプロバイダー (データストアオブジェクト、インフォキューブなど) を単一の論理エンティティに統合し、レポート作成や分析に活用できる強力なモデリングオブジェクトです。SAP BW/4HANA内の様々なソースからデータを統合する柔軟性を提供します。

/4HANA環境。正解がB、C、Eである理由については、以下で詳しく説明します。

\* 誤り: ABAP CDS (コアデータサービス) ビューはSAP HANAエコシステムの一部ですが、SAP BW/4HANAの複合プロバイダーはABAP CDSビューの結合を直接サポートしていません。複合プロバイダーは、ADSO (アドバンスドデータストアオブジェクト)、インフォキューブ、その他の複合プロバイダーなどのインフォプロバイダーの結合に重点を置いています。ABAP CDSビューを統合する必要がある場合は、通常、SAP HANAの計算ビューを使用するか、外部ツールを介して公開します。

オプションA: 2つのABAP CDSビューを結合する

\* 正解: 複合プロバイダーの主な機能の1つは、計算フィールドを作成する機能です。これらのフィールドを使用すると、基盤となるインフォプロバイダの既存のフィールドに基づいて、新しい指標や属性を定義できます。例えば、収益をコストで割ることで利益率を計算できます。この機能により、複合プロバイダの分析機能が強化されます。

オプションB: 新しい計算フィールドを作成する

\* 正解: 複合プロバイダーでは、制限付きキー数値を定義することもできます。制限付きキー数値は、特定の地域や製品カテゴリーの売上高を制限するなど、特定の基準に基づいてデータをフィルタリングするために使用されます。この機能は、焦点を絞った有意義なレポートを作成するために不可欠です。

オプションC: 新しい制限キー数値を定義する

\* 誤り: SAP HANA の計算ビューは SAP HANA 環境におけるモデリングに広く使用されていますが、SAP BW/4HANA の複合プロバイダーはこれらのビューをネイティブに統合していません。SAP BW/4HANA は、ADSO や InfoCube といった独自のモデリングオブジェクトに重点を置いています。ただし、Open ODS ビューを使用すれば、SAP HANA の計算ビューを BW/4HANA 環境に統合できます。

オプションD: SAP HANAの計算ビューを統合する

\* 正解: 複合プロバイダーは、結合とユニオンを用いて複数のインフォプロバイダーを統合するために特別に設計されています。結合は共通キーに基づいてデータをマージし、ユニオンは異なるソースからのデータを追加できます。この柔軟性により、複合プロバイダーはSAP BW/4HANAの様々なインフォプロバイダー間でデータを統合するための中心的なツールとなっています。

オプションE: Joins Unions を使用して InfoProvider を結合する

\* SAP BW/4HANA モデリング ガイド: 公式ドキュメントでは、InfoProvider を組み合わせて高度な計算と制限を有効にする際の複合プロバイダーの役割について説明しています。

\* SAP ヘルプ ポータル: このポータルでは、複合プロバイダーと他のモデリング オブジェクトの違いに関する詳細な情報が提供され、それらの統合機能が強調されています。

\* SAP データ ファブリック アーキテクチャ: SAP データ ファブリックのコンテキストでは、複合プロバイダーは、さまざまなソースにわたるデータへの統一されたアクセスを提供し、シームレスな統合と分析を保証するという目標に沿っています。

SAP Data Engineer - Data Fabric の概念への参照複合プロバイダーの機能と制限を理解することで、SAP BW/4HANA で複合プロバイダーを効果的に活用し、複雑なビジネス要件を満たすことができます。

質問: 52

複合プロバイダーではどの結合タイプを使用できますか? 注: この質問には3つの正解があります。

- A. テキスト結合
- B. 時間階層結合
- C. 完全外部結合

#### D. 参照結合

#### E. 内部結合

正解: ([正解を表示します](#))

SAP Data Engineer - Data Fabric、特にSAP BWの複合プロバイダーのコンテキスト内/4HANAには、異なるソースからのデータを効果的に組み合わせるために利用できる特定の種類の結合があります。質問で言及されているそれぞれの結合の種類について詳しく見ていきましょう。

\* テキスト結合 (A): テキスト結合は、クエリ結果に説明テキスト (ロードの説明など) を含める必要がある場合に使用します。この結合タイプは、言語固有の属性に基づいて、プライマリテーブルとテキストテーブルを結合します。これにより、テキスト情報が適切にリンクされ、メインデータと並べて表示されます。これは、レポートやクエリで人間が読める説明が必要なシナリオで特に役立ちます。

\* 時間階層結合 (B): 時間階層結合は複合プロバイダーではサポートされていません。これらのタイプの結合は通常、Advanced DataStore Objects (ADSO) またはその他の一時的データモデル内の時間依存階層を処理する場合など、SAP システム内の他のコンテキストで使用されます。

ただし、複合プロバイダーには適用されません。

\* 完全外部結合 (C): 複合プロバイダーでは完全外部結合は使用できません。複合プロバイダーは主に内部結合、参照結合、テキスト結合をサポートしています。左側または右側のテーブルのいずれかに一致するレコードがある場合にすべてのレコードを結合する完全外部結合は、この特定のコンテキストでは結合オプションに含まれていません。

\* 参照結合 (D): 参照結合は、関係するテーブル間の参照整合性を前提とする最適化された結合です。これは、システムが一方のテーブルのすべての関連エントリが、もう一方のテーブルにも対応するエントリを持つと想定していることを意味します。この条件が満たされている場合、参照結合は処理されるデータ量を削減することで、クエリのパフォーマンスを大幅に向上させることができます。参照結合は、パフォーマンスを維持しながら効率的にデータを結合するために、複合プロバイダーでよく使用されます。

\* 内部結合 (E): 内部結合は、複合プロバイダーで使用される基本的な結合タイプです。結合対象の両方のテーブルで一致する値を持つレコードのみを返します。これは、その簡潔な性質と関連するデータセットの結合における有効性から、最も頻繁に使用される結合タイプの一つです。

参考資料:SAP BW/4HANA ドキュメント: 公式ドキュメントでは、サポートされる結合の種類など、複合プロバイダーの機能と制限について概説しています。

SAP ヘルプ ポータル: SAP BW/4HANA 環境内でさまざまな結合タイプがどのように機能するかについて、詳細な説明と例を提供します。

SAP コミュニティのブログとフォーラム: ディスカッションや専門家の洞察では、複合プロバイダーでさまざまな結合タイプを実装するための実用的なユースケースやベストプラクティスが頻繁に紹介されます。

これらの結合タイプとそのアプリケーションを理解することで、データエンジニアは、SAP Data Engineer - Data Fabric フレームワーク内で効率的かつ効果的なデータモデルを設計し、最適なパフォーマンスと正確なデータ表現を確保できます。

**質問: 53**

プロセスチェーンを自動生成するボタンはどこにありますか？

- A. プロセスチェーン更新のSAP GUIトランザクション内
- B. プロセスチェーンエディターというアプリで
- C. データ転送プロセスのエディター内
- D. データフローオブジェクトのエディター内

正解: ([正解を表示します](#))

**質問: 54**

SAP S/4HANA ABAP CDSビューをSAP BWへの抽出に使用するための前提条件は何ですか？

ODP コンテキストでの /4HANA ですか？ 注: この質問には 2 つの正解があります。

- A. ABAP CDS ビューは、BW 抽出用のプログラム RODPS\_OS\_EXPOSE を通じてリリースする必要があります。
- B. オペレーショナル データ プロビジョニング フレームワークを SAP BW/4HANA で設定する必要があります。
- C. コンテキスト ODP\_CDS を持つ ODP ソース システムを SAP BW/4HANA に作成する必要があります。
- D. ABAP CDS ビューは、適切なデータ抽出アノテーションを使用して定義する必要があります。

正解: **A,C** ([コメントを发表する](#))

オペレーショナルデータプロビジョニング (ODP) フレームワークを使用してSAP S/4HANA ABAP CDS (白データサービス)ビューからSAP BW/4HANAにデータを抽出するには、特定の前提条件を満たす必要があります。これらの前提条件により、CDSビューが適切に公開され、抽出のためにアクセスできるようになります。検証済みの回答が正しい理由については、以下で詳しく説明します。

\* ABAP CDSビュー :ABAP CDSビューは、SAP S/4HANAで定義された再利用可能なデータモデルです。データクエリのためのセマンティックレイヤーを提供し、レポート作成や分析に使用できます。

\* Operational Data Provisioning (ODP):ODP は、SAP S/4HANA を含むさまざまなソースシステムからリアルタイムまたはほぼリアルタイムのデータ抽出を可能にする SAP BW/4HANA のフレームワークです。

\* ODPコンテキスト :ODPコンテキストは、ソースシステムのタイプとデータ抽出方法を定義します。CDSビューの場合は、コンテキストODP\_CDSが使用されます。

\* データ抽出注釈:CDS ビューの注釈は、フィールド プロパティや抽出動作など、抽出目的のメタデータを指定します。

## 重要な概念:

- \* オプション A: ABAP CDS ビューは、BW 抽出用のプログラム RODPS\_OS\_EXPOSE を通じてリリースする必要があります。
- \* 正しい理由 :ABAP CDSビューをODP経由で抽出できるようにするには、プログラム RODPS\_OS\_EXPOSEを使用して明示的に解放する必要があります。この手順により、ビューがODPフレームワークに登録され、SAP BW/4HANAからアクセスできるようになります。
- \* オプション B: オペレーショナル データ プロビジョニング フレームワークを SAP BW/4HANA で設定する必要があります。
- \* なぜ不正解ですか？ODPフレームワークの設定は、ODPベースの抽出における一般的な前提条件ですが、ABAP CDSビューの抽出に固有のものではありません。このオプションは範囲が広すぎるため、直接的な前提条件とはみなされません。
- \* オプション C: コンテキスト ODP\_CDS を持つ ODP ソース システムを SAP BW/4HANA に作成する必要があります。
- \* 正解の理由 :ABAP CDSビューからデータを抽出するには、SAP BW/4HANAにコンテキストODP\_CDSを持つODPソースシステムを作成する必要があります。このコンテキストは、ソースシステムがCDSビューからデータを提供することを指定します。
- \* オプション D: ABAP CDS ビューは、適切なデータ抽出アノテーションを使用して定義する必要があります。
- \* なぜ不正解ですか？CDSビューでメタデータを定義するにはアノテーションが重要ですが、ODPベースの抽出では必須ではありません。主な要件は、RODPS\_OS\_EXPOSEを使用してビューを解放することです。

## 検証済みの回答の説明:

- \* SAP BW/4HANA 抽出ガイド: このガイドでは、RODPS\_OS\_EXPOSE の使用や ODP ソース システムの作成など、ODP フレームワークを使用して ABAP CDS ビューからデータを抽出する手順について説明します。
- \* SAP ノート 2700850: このノートには、BW 抽出用の CDS ビューをリリースし、ODP フレームワークを構成するための詳細な手順が記載されています。
- \* ODP 抽出に関する SAP ベスト プラクティス:SAP では、ABAP CDS ビューからデータを抽出するために ODP\_CDS コンテキストを使用することを推奨しており、RODPS\_OS\_EXPOSE を使用してビューをリリースすることの重要性を強調しています。

## SAP ドキュメントとリファレンス:

### 質問: 55

クエリ定義で変更できる外部階層プロパティはどれですか? 注: この質問には 3 つの正解があります。

- A. テキストノードを表示する
- B. ソート方向

- C. 時間依存性
- D. レベルアップ経験値
- E. 子ノードの位置

正解: B,D,E ([コメントを发表する](#))

質問: 56

すでにSAP以外のシステムから にデータをロードしています。このデータを、SAP HANA を搭載したSAP BWのInfoCubeのデータと統合したいと考えています。データを結合するには何が必要ですか？

- A. SAP BW/4HANA モデル転送
- B. SAP BW リモート移行
- C. SAP BW シェルの移行
- D. SAP ABAP 接続

正解: ([正解を表示します](#))

質問: 57

データ分析のパフォーマンスを向上させるには、DataStore オブジェクト (高度) のどの機能を利用する必要がありますか？

- A. スナップショットのサポート
- B. パーティション分割
- C. 在庫管理
- D. 変更ログ

正解: ([正解を表示します](#))

\* データストアオブジェクト (アドバンス) SAP BW/4HANAにおけるデータストアオブジェクト (アドバンス)は、ステージングとレポート作成の両方をサポートする柔軟なデータストレージオブジェクトです。詳細なデータ保存が可能で、パーティショニング、圧縮、スナップショットサポートなどの高度な機能を提供します。

\* パーティショニング :パーティショニングは、特定の基準 (時間ベース、値ベースなど)に基づいて、大規模なデータセットを小さく管理しやすいチャンクに分割します。これにより、分析中にスキャンされるデータ量が削減され、クエリのパフォーマンスが向上します。

\* スナップショットサポート: この機能により、データの定期的なスナップショットをデータストアオブジェクト (高度)に保存できます。履歴分析には便利ですが、クエリのパフォーマンスを直接向上させるものではありません。

\* 在庫管理: これは、データ分析のコンテキストにおけるパフォーマンスの最適化とは無関係です。

\* ChangeLog: ChangeLog は増分更新の差分レコードを保存します。データの読み込みには重要ですが、クエリのパフォーマンスを直接向上させるものではありません。

主要概念 :パーティショニングがパフォーマンスを向上させる理由 :パーティショニングは、データベース管理システムにおいてクエリパフォーマンスを最適化するためのよく知られた手法です。データをパーティションに分割することで、クエリはデータセット全体

をスキャンするのではなく、特定のデータのサブセットに集中することができます。例えば：

\* 時間ベースのパーティショニング (年または月別など) により、関連する期間のみをクエリの対象にすることができます。

\* 値に基づくパーティション分割 (例: 地域またはカテゴリ別) により、データのフィルタリングが高速化されます。

SAP BW/4HANA では、データストア オブジェクト (詳細) のパーティショニングを有効にすると、I/O 操作が削減され、並列処理機能が向上するため、データ分析のパフォーマンスが大幅に向上します。

\* A. スナップショットのサポート: 履歴レポートには便利ですが、クエリのパフォーマンスを直接向上させるものではありません。

\* C. インベントリ管理: これはクエリのパフォーマンスとは関係なく、マテリアライズドデータの管理に関係します。

\* D. ChangeLog: これはデルタ処理に使用され、クエリのパフォーマンスには影響しません。

参考資料:SAP BW/4HANA ドキュメント: 公式ドキュメントでは、データストア オブジェクト (高度) でのクエリ パフォーマンスを最適化するための重要な機能としてパーティショニングが強調されています。

パフォーマンス最適化のための SAP ベストプラクティス: 大規模なデータセットでは、クエリ実行時間を改善するためにパーティショニングが推奨されます。

DataStore オブジェクトに関する SAP ノート (詳細): ノート 2708497 などのノートでは、パフォーマンス向上のためのパーティショニングの利点について説明しています。

パーティショニングを有効にすると、データストア オブジェクト (高度) でのデータ分析のパフォーマンスが大幅に向上します。

有効的な**C\_BW4H\_2505**問題集はJPNTTest.com提供され、**C\_BW4H\_2505**試験に合格することに役に立ちます！JPNTTest.comは今最新**C\_BW4H\_2505**試験問題集を提供します。JPNTTest.com C\_BW4H\_2505試験問題集はもう更新されました。ここで**C\_BW4H\_2505**問題集のテストエンジンを手に入れます。最新版のアクセス、[https://www.jpntest.com/shiken/C\\_BW4H\\_2505-mondaishu](https://www.jpntest.com/shiken/C_BW4H_2505-mondaishu) **83**問、**30%**ディスカウント、特別な割引コード: **JPNshiken**」